

秋田県立博物館

年 報

令和6年度

秋田県立博物館



はじめに

秋田県立博物館は1975（昭和50）年5月、郷土秋田の人文4部門と自然2部門を展示した本館と、「重要文化財・旧奈良家住宅」を分館として、広く県民の学術および文化の発展に寄与することを目的に、ここ秋田市北部の景勝地、小泉瀉公園一角に総合博物館として誕生しました。以来、1996（平成8）年4月には、秋田の地で活躍した江戸時代後期の紀行家、菅江真澄を紹介した「菅江真澄資料センター」と、近・現代に各分野で活躍した秋田ゆかりの人物152名を紹介した「秋田の先覚記念室」の二つの展示室を新設し、郷土秋田を創ってきた先覚に学ぶ拠点としての機能を加えました。また、2004（平成16）年4月には、参加体験型ブース「わくわくたんけん室」を加えてのリニューアルオープンを経て、現在は8部門を擁して県民の皆様のみならず、広く県外や国外からの来館者を迎える体制を整えて多種多様な知の充実、心の充実のニーズに応えているところであります。

当博物館の正面入り口の側には、秋田県史において24年もの長期にわたり多大な功績を遺した、故小畑勇二郎元知事の銅像があります。小畑元知事が在任中に力を入れた政策の一つに、生涯学習の推進があげられます。日本でいち早く生涯学習の重要性を訴え実践されたことで、その理念や精神に共鳴した当時の世代の人たちから次の世代またその次の世代へと絆をつないできたことにより、今の教育立県あきたの土台が築き上げられたものと捉えています。この生涯学習の学習機会拡充に大きな役割を担っているのが、当博物館の使命の一つであるといえます。

2023（令和5）年4月より改正博物館法が施行され、博物館の担うべき使命、寄せられる期待はさらに大きなものとなっています。当博物館は、これまで継承してきた理念に加え、時代の要請にしっかりと応えながら、本館が保有している、有形・無形の財産をできる限り多くの皆様に公開し、新たな感動や気づき、学びの楽しさを体験していただくとともにこれからの地域や社会の発展に寄与してまいります。2024（令和6）年度も変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

秋田県立博物館

館長 宇佐美 行 毅

目次

■ 施設の概要	
I 博物館のあゆみ	4
II 施設・設備	5
III 展示室	9
IV 組織	13
V 職員	14
■ 事業の概要	
I 令和6年度博物館運営方針	16
II 令和6年度博物館事業計画	16
1 重点目標	16
2 活動計画	17
III 令和5年度事業報告	20
1 調査研究活動	20
2 資料収集管理活動	23
3 展示活動	25
4 教育普及活動	31
5 広報出版活動	35
6 学習振興活動	36
7 館外活動	39
8 令和5年度のあゆみ	40
■ 資料	
I 収蔵資料の概要	42
II 歴代館長、特別展等一覧	43
III 秋田県立博物館条例	44
IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）	45
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）	45
V 入館者に関する資料	46

施設の概要

I 博物館のあゆみ

- 昭和42年 1月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
- 47年 3月 県立博物館設立構想完成
- 49年 11月 定礎式
- 50年 3月 秋田県立博物館条例制定
5月 開館式（5日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
- 7月 登録博物館となる（登録日50.7.1）
- 53年 10月 皇太子皇太子妃両殿下行啓
- 54年 1月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
- 55年 5月 秋田県博物館等連絡協議会発足
- 59年 9月 開館10周年記念式典
- 63年 9月 本館屋根防水工事完了
- 平成3年 8月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
9月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工
- 4年 11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成
- 5年 7月 増築工事着工
- 7年 8月 増築工事完成
- 8年 4月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
- 9年 8月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置
- 11年 4月 入館料が無料となる
- 14年 4月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
- 15年 10月 改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
- 16年 3月 展示工事完成
4月 リニューアルオープン
- 17年 12月 開館30周年記念式典
- 18年 3月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
- 20年 7月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
- 27年 9月 開館40周年記念式典
- 29年 7月 皇太子皇太子妃両殿下行啓
- 令和4年 3月 館内Wi-Fi化工事完了
5年 2月 ウェブサイトリニューアル

Ⅱ 施設・設備

設置場所	秋田市金足鳩崎字後山52	(株)中田建築設備
敷地面積	15,000.32㎡	(株)ユアテック秋田支社
建築面積	6,237.93㎡	サン電気工業(株)
建築延面積	11,946.2㎡	展示製作実施設計 (株)丹青社
建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階、塔屋2階建	展示製作委託施工 (株)乃村工藝社

【建築工事】

建築費	2,058,131千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	昭和48年7月
竣工	昭和49年11月
開館	昭和50年5月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)三晃空調 東北電気工事(株) 展示設計施工 (株)丹青社

【増築工事】

建築費	1,578,174千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	平成6年7月
完成	平成8年2月
増設開館	平成8年4月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)ユアテック 日の出施設工業(株) (株)三和施設 日本オーチスエレベータ(株) 展示設計施工 (株)アートシステム

【NMP事業】

事業費	2,087,400千円 {総事業費(含調査事務費、 展示製作委託費)}
着工	平成14年3月
完成	平成16年3月
リニューアル開館	平成16年4月29日
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 (株)林工務店 (株)清水組JV 設備施工 大民施設工業(株) (株)あたごJV

設 備

〈電気設備〉	
(1) 受電電圧	3φ6,600V 50HZ
一般照明用	450KVA (150×3)
一般動力用	550KVA (300×1) (250×1)
非常照明用	50KVA
非常動力用	150KVA
(2) 発電機設備	発電電圧 3φ6,600V 50HZ 200KVA
エンジン	ディーゼル 230KVA
(3) 蓄電池設備	108V 200AH 10HR 54セル
(4) その他幹線・動力・電灯用設備一式	
〈警戒(報)設備〉	
(1) レーダー警報設備	(展示室・収納庫) 方式、パッシブインフラレッド方式 レーダー検出 10ヶ所 ドアスイッチ 10ヶ所
(2) I・T・V監視設備	監視用カメラ 21台 (展示室14台 収蔵庫4台 1Fホール1台 外2台)
(3) 一般・非常放送設備	ロッカ型防災アンプ 容量 200W 非常時警報音 自動吹鳴式(サイレン)
〈空調換気設備〉	
(1) 冷凍機設備	(備熱水槽方式 容量780m ³) 直焚吸収式冷温水機 冷却能力 1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基 ターボ冷凍機(夜間蓄熱運転系統) 冷却能力 312KW 1基 空冷チリングユニット(夜間運転系統) 冷却能力 132KW 1基
(2) ボイラー設備	貫流ボイラー(暖房・加湿用) 熱出力 940KW (換算蒸発量1,500kg/h)

伝熱面積 9.9m³ 2基

(3) 空気調和設備 (10系統)

冷却能力合計 897.8KW

加熱能力合計 524.6KW

(4) 換気設備一式

給気量 (7系統) 合計 25,850m³/h

排気量 (9系統) 合計 28,360m³/h

(5) 空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・垂れ壁6ヶ所

防火扉36ヶ所・防火シャッター6ヶ所

(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓17ヶ所 屋外消火栓14ヶ所

ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)

二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)

〈その他の設備〉

(1) 荷物用エレベーター

容量2,500kg 45m/min 1基

(2) 乗用エレベーター

積載量750kg 11人乗45m/min 2基

(3) 電話設備 局線5回線 内線57回線

(4) 衛生設備 給排水設備一式

(5) ガス設備及び避雷針設備

(6) ガス燻蒸消毒設備

建築予算

単位：千円

区分	44~46年度	47年度	48年度	49年度	計	財源内訳
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建物費	-	-	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	-	-	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

増築予算

単位：千円

区分	3~4年度	5年度	6年度	7年度	計	財源内訳
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建物費	-	-	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展示・資料費	-	1,500	141,784	310,534	453,818	
初度調弁・その他	-	-	-	11,000	11,000	一般
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

NMP21事業予算

単位：千円

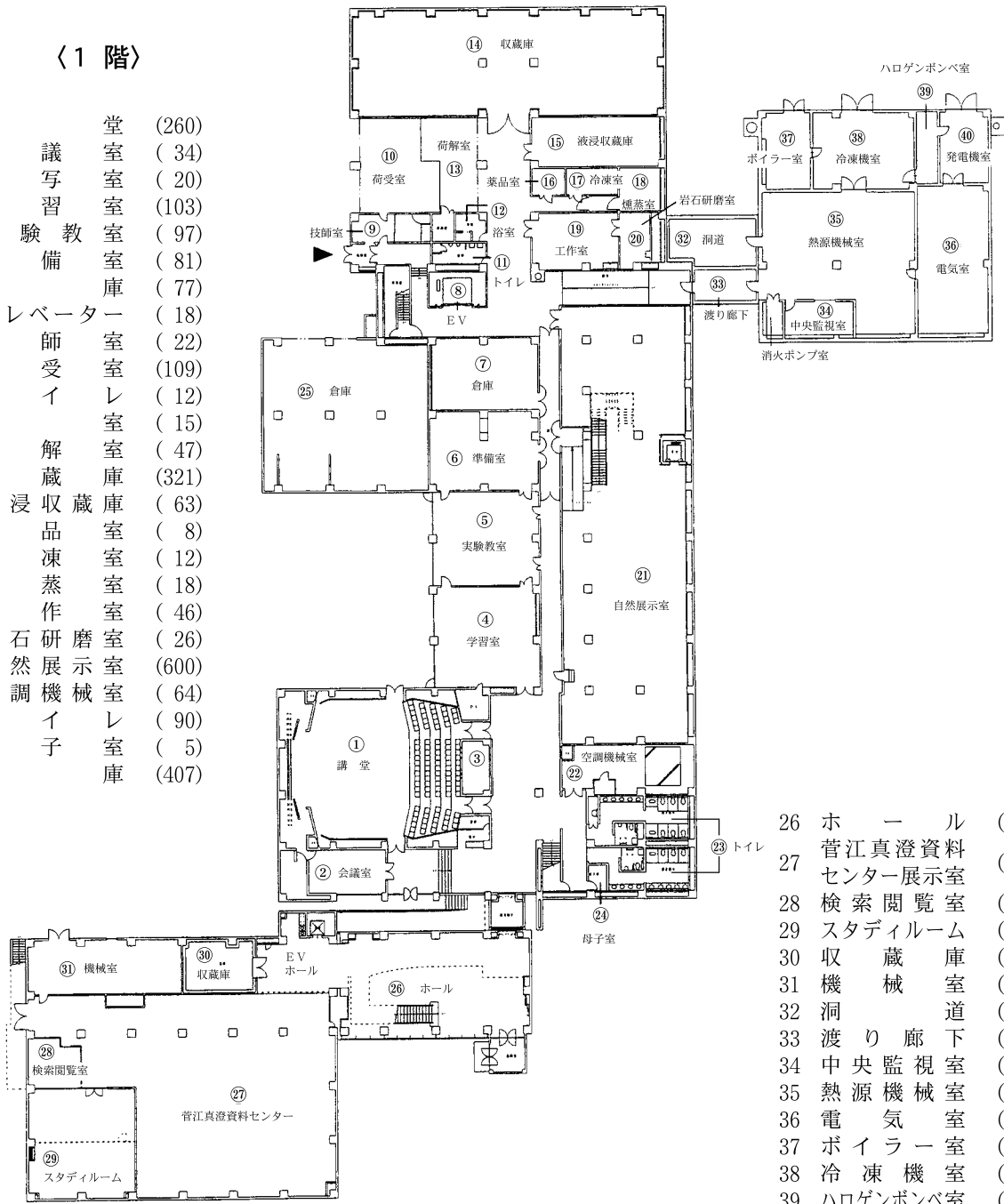
区分	11年度	13年度	継続費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	-	-	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委託費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	-	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

一各階平面図一

() 内の数字は面積 (単位㎡)

<1階>

- 1 講 堂 (260)
- 2 会 議 室 (34)
- 3 映 写 室 (20)
- 4 学 習 室 (103)
- 5 実 験 教 室 (97)
- 6 準 備 室 (81)
- 7 倉 庫 (77)
- 8 エレベーター (18)
- 9 技 師 室 (22)
- 10 荷 受 室 (109)
- 11 ト イ レ (12)
- 12 浴 室 (15)
- 13 荷 解 室 (47)
- 14 収 蔵 庫 (321)
- 15 液 浸 収 蔵 庫 (63)
- 16 薬 品 室 (8)
- 17 冷 凍 室 (12)
- 18 燻 蒸 室 (18)
- 19 工 作 室 (46)
- 20 岩 石 研 磨 室 (26)
- 21 自 然 展 示 室 (600)
- 22 空 調 機 械 室 (64)
- 23 ト イ レ (90)
- 24 母 倉 庫 (5)
- 25 倉 庫 (407)



- 26 ホール (242)
- 27 菅江真澄資料センター展示室 (464)
- 28 検索閲覧室 (23)
- 29 スタディールーム (113)
- 30 収蔵庫 (40)
- 31 機械室 (83)
- 32 洞 道 (42)
- 33 渡り廊下 (25)
- 34 中央監視室 (23)
- 35 熱源機械室 (206)
- 36 電気室 (110)
- 37 ボイラー室 (41)
- 38 冷凍機室 (73)
- 39 ハロゲンボンベ室 (16)
- 40 発電機室 (36)

部門別床面積(㎡)

展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

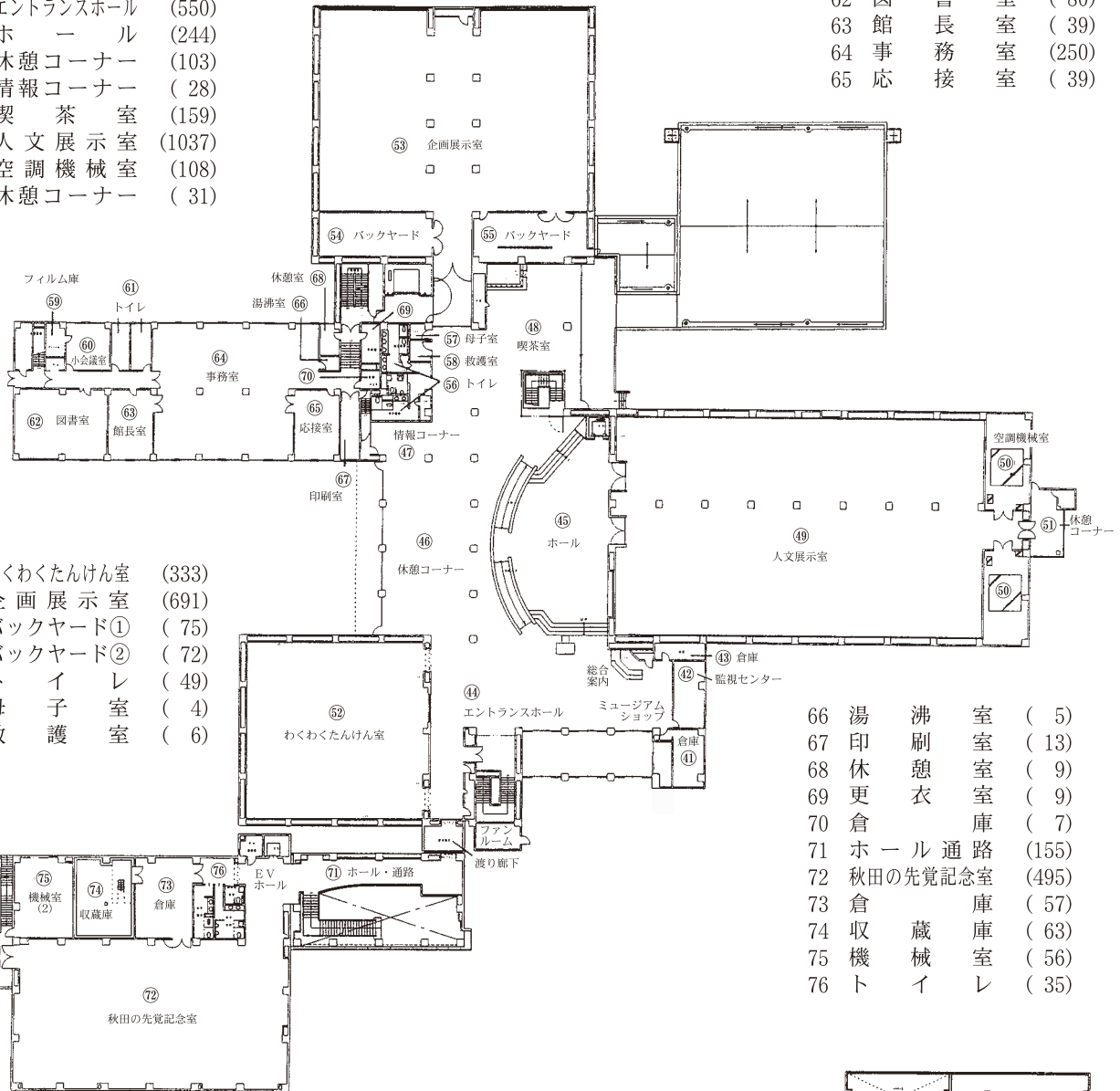
階別面積(㎡)

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2階〉

- 41 倉庫 (23)
- 42 監視センター (25)
- 43 倉庫 (14)
- 44 エントランスホール (550)
- 45 ホール (244)
- 46 休憩コーナー (103)
- 47 情報コーナー (28)
- 48 喫茶室 (159)
- 49 人文展示室 (1037)
- 50 空調機械室 (108)
- 51 休憩コーナー (31)

- 59 フィルム庫 (9)
- 60 小会議室 (26)
- 61 トイレ (29)
- 62 図書室 (80)
- 63 館長室 (39)
- 64 事務室 (250)
- 65 応接室 (39)



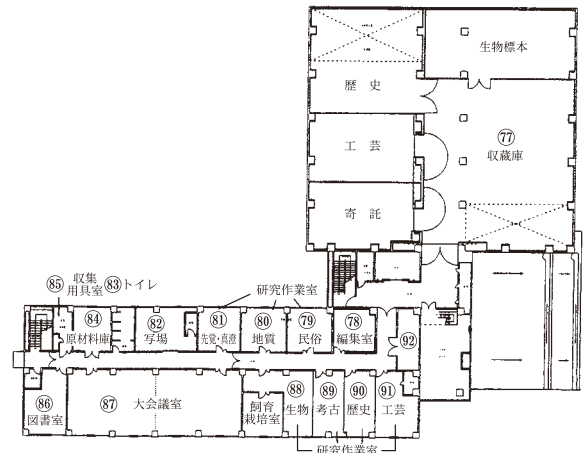
- 52 わくわくたんけん室 (333)
- 53 企画展示室 (691)
- 54 バックヤード① (75)
- 55 バックヤード② (72)
- 56 トイレ (49)
- 57 母子室 (4)
- 58 救護室 (6)

- 66 湯沸室 (5)
- 67 印刷室 (13)
- 68 休憩室 (9)
- 69 更衣室 (9)
- 70 倉庫 (7)
- 71 ホール通路 (155)
- 72 秋田の先覚記念室 (495)
- 73 倉庫 (57)
- 74 収蔵庫 (63)
- 75 機械室 (56)
- 76 トイレ (35)

〈3階〉

- 77 収蔵庫 (840)
- 78 編集室 (27)
- 79 研究作業室(民俗) (28)
- 80 " (地質) (28)
- 81 " (先覚・真澄) (27)
- 82 写場・暗室 (38)
- 83 トイレ (15)
- 84 原材料庫 (24)

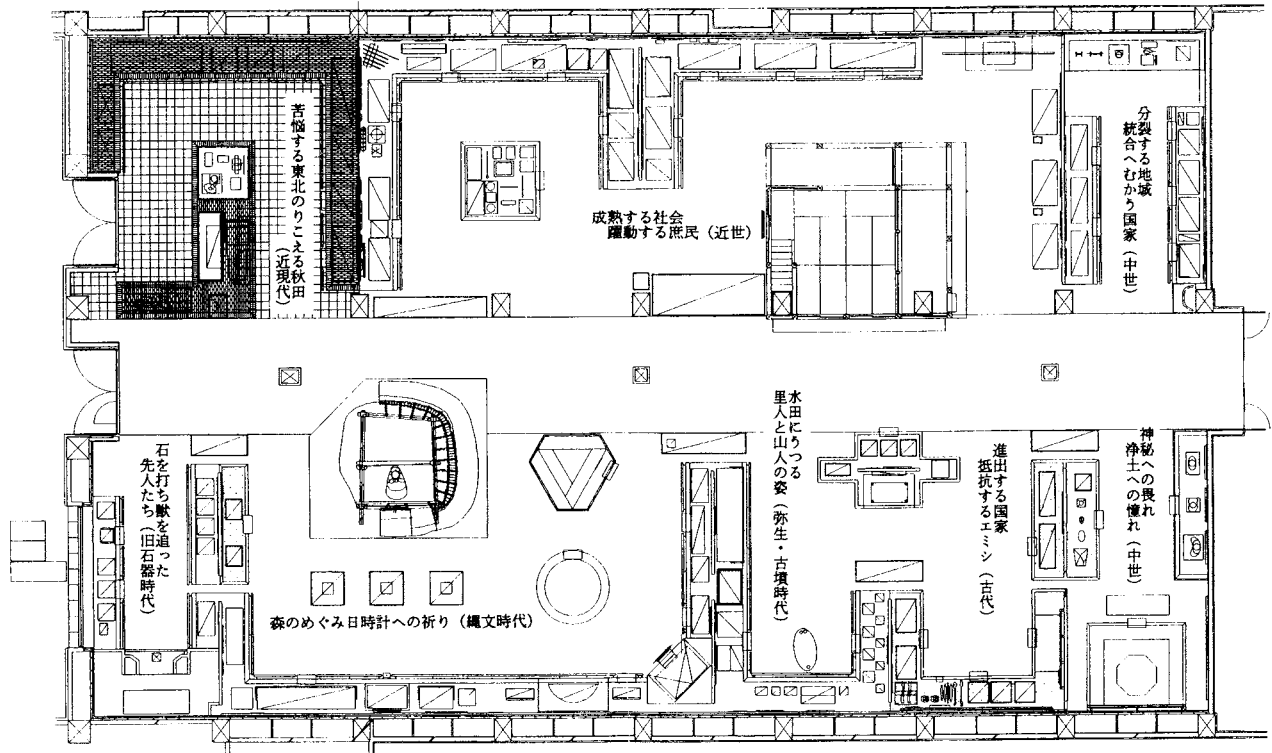
- 85 収集用具室 (10)
- 86 図書室 (34)
- 87 大会議室 (158)
- 88 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 89 研究作業室(考古) (27)
- 90 " (歴史) (27)
- 91 " (工芸) (39)
- 92 倉庫 (19)



Ⅲ 展 示 室

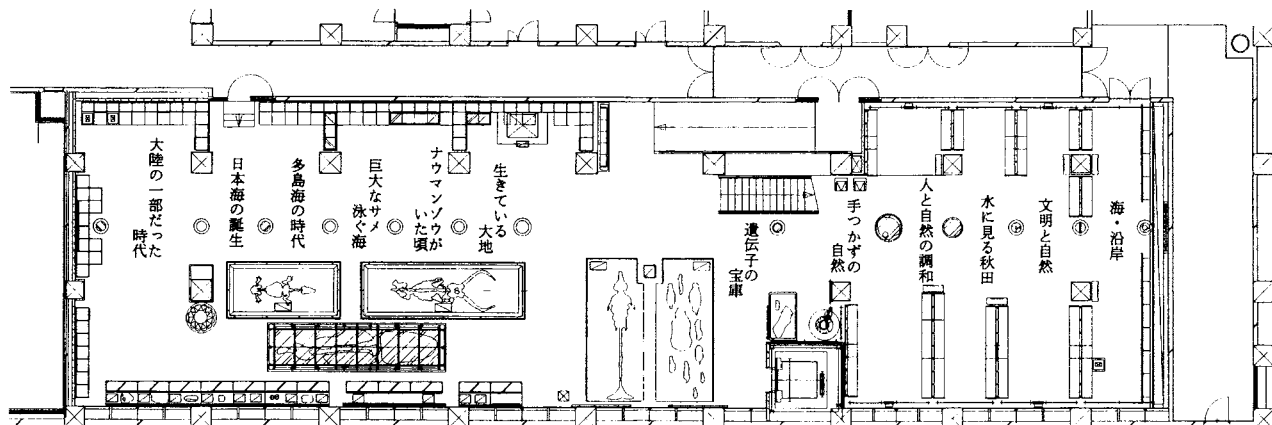
◆人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

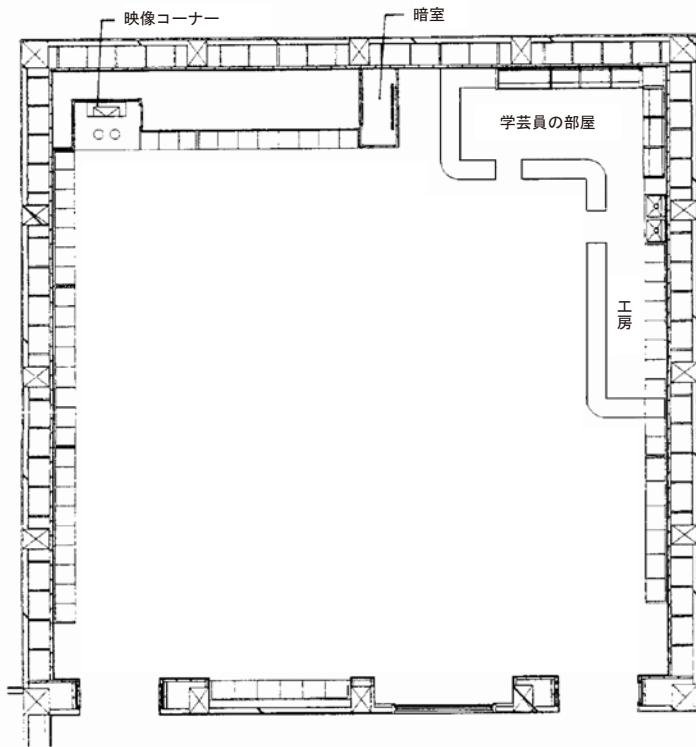


◆自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力余すところなく映し出す映像資料も展示している。



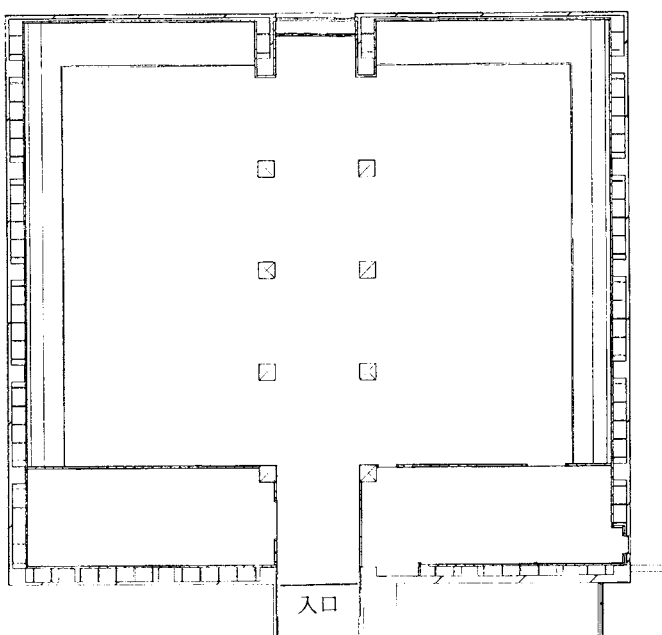
◆ わくわくたんけん室



「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに、様々なアイテムを利用できる展示室。工作や塗り絵などの体験活動を楽しみながら、秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。工芸や自然などの資料を紹介するミニ展示コーナーもある。



◆ 企画展示室

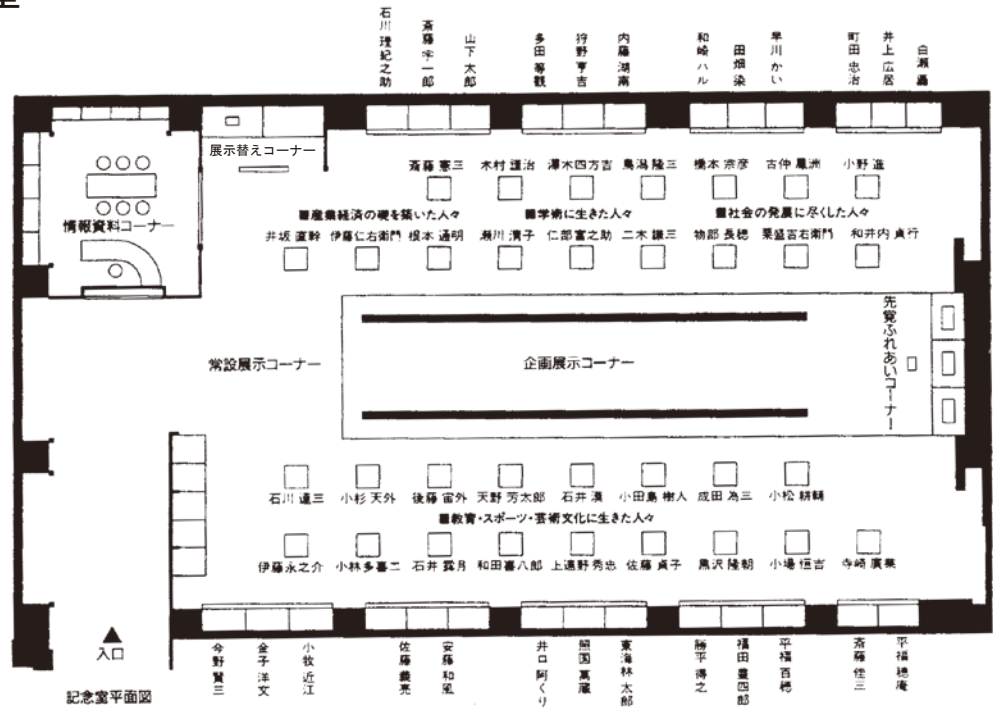


従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。

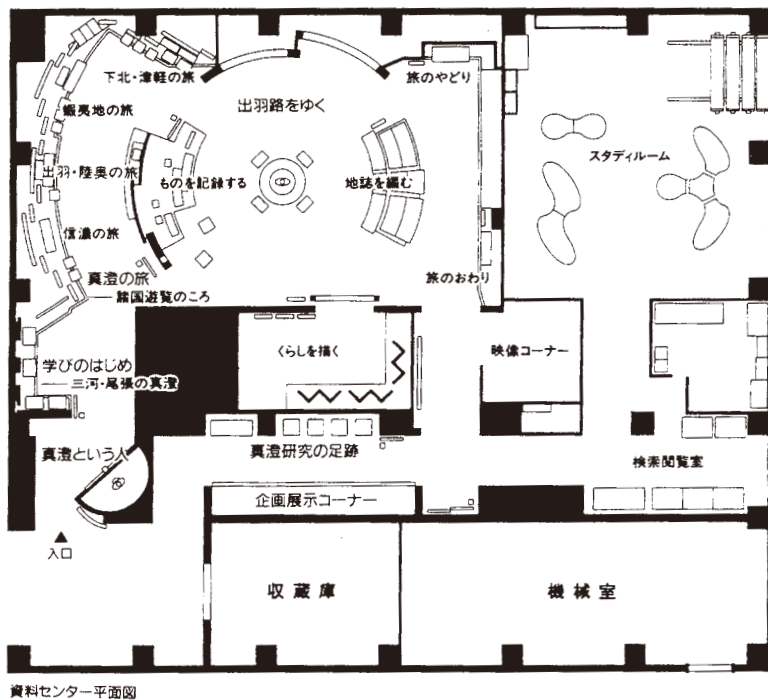


◆ 秋田の先覚記念室

近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。



◆ 菅江真澄資料センター



江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディールーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前8 電話 018 (873) 5009

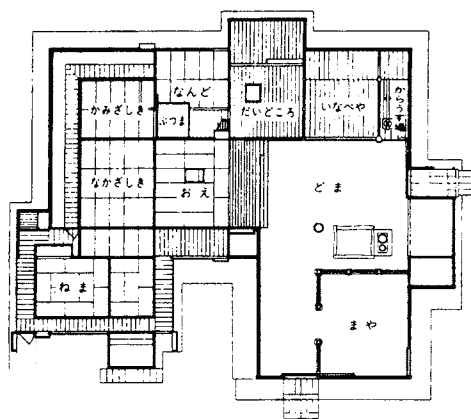
旧所有者 奈良恭三郎（昭和44年5月寄贈）

昭和40年5月29日 重要文化財（建築面積 459.08㎡）

旧奈良家住宅はJR東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から1kmの男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



◆ 旧奈良家住宅附属屋

敷地内にある附属屋は平成18年3月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治7年に建造された、土蔵造の建物

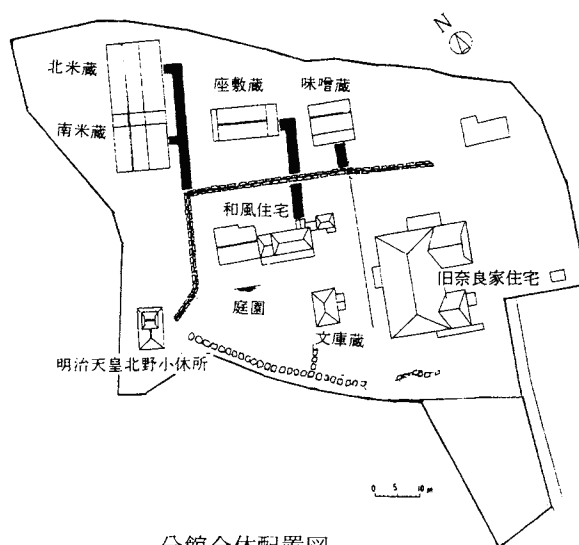
座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物

米蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

明治天皇北野小休所（移築）……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

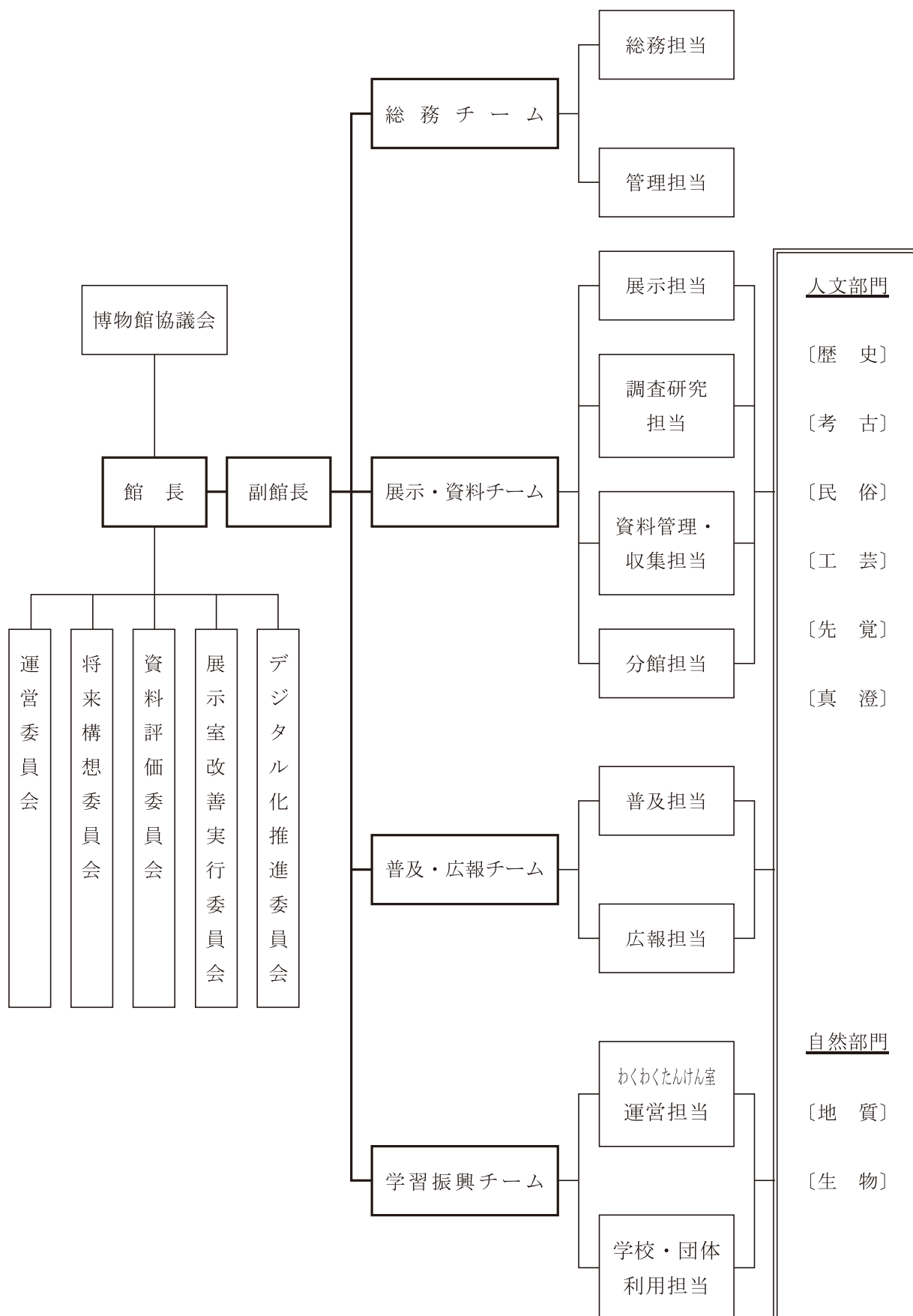
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物

文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

IV 組 織



V 職 員

チーム名	職 名	氏 名	各チームの分掌と部門担当
	館 長	宇佐美 行 毅	総括
	副 館 長	阿 部 雅 彦	館長の補佐
総務 チ ー ム	副 主 幹 (兼)チームリーダー	佐々木 朋 子	チームの総括 非常勤職員の任免、防災・衛生管理に関すること
	主 事	戸 村 直 登	サービス、給与、歳入予算に関すること
	主 事	菅 原 柊 太	管理、営繕、歳出予算に関すること
	技 能 主 任	武 田 光 彦	空調設備運転、施設設備管理に関すること
	技 能 主 任	大 川 一 成	公用車運転、施設設備管理に関すること
展 示・ 資 料 チ ー ム	主任学芸専門員 (兼)チームリーダー	新 堀 道 生	チームの総括 歴史部門に関すること
	学 芸 主 事	築 地 洋	地質部門、調査研究・資料管理に関すること
	学 芸 主 事	深 浦 真 人	民俗部門、展示企画・資料管理に関すること
	学 芸 主 事	藤 中 由 美	生物部門、展示企画・資料管理に関すること
	学 芸 主 事	斉 藤 洋 子	工芸部門、展示企画・資料管理に関すること
	学 芸 主 事	鈴 木 照 洋	地質部門、調査研究・資料管理に関すること
普 及・ 広 報 チ ー ム	副 主 幹 (兼)チームリーダー	加 藤 竜	チームの総括 考古部門に関すること
	副 主 幹	鈴 木 秀 一	先覚部門、広報、教育普及に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	藤 原 尚 彦	工芸部門、教育普及に関すること
	学 芸 主 事	黒 川 陽 介	歴史部門、広報に関すること
	学 芸 主 事	角 崎 大	真澄部門、広報に関すること
学 習 振 興 チ ー ム	主任学芸専門員 (兼)チームリーダー	丸 谷 仁 美	チームの総括 民俗部門に関すること
	主 査 (兼)学芸主事	山 本 丈 志	工芸部門、わくわくたんけん室の運営に関すること
	学 芸 主 事	渡 部 猛	考古部門、わくわくたんけん室の運営に関すること
	学 芸 主 事	三 浦 益 子	生物部門、わくわくたんけん室の運営に関すること
	主 任 (兼)学芸主事	千 田 育 栄	先覚部門、学校団体利用に関すること

[会計年度任用職員]

畑 澤 俊 視 (ボイラー)
三 浦 信 一 (同)
黒 沢 清 直 (守 衛)
鈴 木 博 (同)
最 上 武 元 (同)
谷 口 重 光 (同)
虻 川 政 法 (工 作)

加賀谷 洋 子 (展示解説・案内)
小 林 純 子 (同)
佐 藤 里 美 (同)
三 浦 由 華 子 (同)
渡 會 知 子 (同)
佐 藤 未 央 (同)
小 林 清 佳 (同)
丸 山 和 (同)
熊 谷 桐 子 (同)
佐 藤 加 寿 子 (同)

嵯 峨 彩 子 (学芸補助)
佐々木 由 衣 (同)
藤 井 千 里 (同)
唐津谷 浩 生 (同)
佐 野 富 之 (同)

事業の概要

I 令和6年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに培ってきた博物館活動の成果を継承し、さらに、社会的・地域的課題と向き合うことにより発展させ、県民文化の向上に寄与する。

- 1 県民の知の拠点施設として、県民や関係機関と協働・連携し、秋田に関する調査・研究を進める。
- 2 秋田の文化や自然を次世代につなげるため、資料の収集・保存及び情報のデジタル化に努める。
- 3 県内唯一の県立の総合博物館として、広く秋田の魅力を発信するとともに、展示・公開の充実を図る。
- 4 県民の生涯学習に資する社会教育施設として、全ての世代に向けた教育普及活動を推進する。

II 令和6年度博物館事業計画

1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。
 - ア 組織的、計画的な調査研究に取り組み、博物館資料としての価値を高めていく。
 - イ 調査研究の成果を、広く県民に公開・発信する。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
 - ア 収蔵資料の増加に対応すべく、収蔵資料の整理及び収蔵環境の維持と改善に取り組む。
 - イ 収蔵及び展示資料のデジタル・アーカイブ化を推進し、広く情報を発信する。
 - ウ デジタル化の進捗に対応し、利用者むけの情報加工を行い、広く県民の学習活動を支援する。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
 - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。
 - イ 常設展示の情報を整備し、展示室の効果的な利用を図る。
- (4) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
 - ア 博物館教室、展示関連事業等により、普及活動の充実を図る。
 - イ 諸機関との連携事業や館外講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。
- (5) 博物館活動の広報を通して、郷土への誇りや愛着の醸成に努める。
 - ア 印刷物やホームページ、SNS等、それぞれの媒体の特徴を活かしながら博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。
- (6) 県民の生涯学習に資する社会教育施設を目指し、教育普及活動に取り組む。
 - ア 秋田県ならびに展示室と関連する新アイテムやイベントの開発ならびにわくわくたんけん室の室内環境の改善に取り組む。
 - イ 学校団体によるセカンドスクールの利用の充実を図り、利用計画の提案や広報によって博物館利用の促進に努める。

2 活動計画

調査研究

◇調査研究

- ・展示会開催を目的とする調査研究
- ・執筆・講演・講座等に伴う調査研究
- ・特定の分野・フィールドに関する調査研究
- ・他機関からの依頼・要請による調査研究、共同研究
- ・収蔵品の収集・整理と収蔵品に関するデータ・調書の作成
- ・教育普及・広報・学習振興・館運営に関する調査研究
- ・レファレンス対応に伴う調査研究
- ・専門分野に関する文献情報の収集

- ・調査研究報告会、研修会

◇成果の公表

- ・『秋田県立博物館研究報告』の編集発行
- ・『真澄研究』の編集発行

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇燻蒸消毒作業

- ・収蔵庫 ◎燻蒸期間 9月2日(月)～9日(月)

◇資料データベース化の推進

◇収蔵庫管理の推進

展示

◇展示活動

- ・企画展示室における企画展・特別展
企画展「美の交差点 博覧会とあきたの工芸」
4月27日(土)～6月30日(日)
特別展「世界の昆虫展」
7月20日(土)～8月25日(日)
企画展「稲穂の詩～秋田と米づくり～」
9月28日(土)～12月1日(日)
企画展「秋田の宝 県指定文化財展」
令和7年2月15日(土)～4月6日(日)
- ・菅江真澄資料センター企画コーナー展
「地誌《月の出羽路仙北郡》を読むー1期ー」
7月27日(土)～9月23日(月・祝)
「地誌《月の出羽路仙北郡》を読むー2期ー」
11月30日(土)～令和7年1月26日(日)
「初学者のための真澄展」
令和7年2月8日(土)～3月30日(日)

- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
「石井露月～子規に見出された医師俳人～」
9月21日(土)～11月24日(日)
- ・ふるさとまつり広場
「子どもの成長を願う～鹿島船～」
4月25日(木)～6月18日(火)
「夏のまつり～七夕絵どうろう～」
7月4日(木)～8月30日(金)
「ハレの日～年祝い～」
10月3日(木)～11月19日(火)
「七福神」 12月5日(木)～令和7年2月4日(火)
「春の訪れ～ひな人形・押絵～」
令和7年2月20日(木)～4月8日(火)
- ・常設展示室における可変展示
- ・他施設との連携展示
県立図書館出張展示「手づくりの味 木製看板の魅力」
4月4日(木)～5月21日(火)

教育普及

- ◇博物館教室・講演会 (全4回) 6月15日(土)、7月30日(火)
- (1) 化石と地層の観察会 7月31日(水)、8月1日(木)
(2回連続) 5月19日(日)、5月26日(日) 8月10日(土)、9月14日(土)
- (2) 簡単!葉っぱの標本づくり 6月16日(日) 9月15日(日)、9月16日(月)
- (3) 昆虫教室-採集と標本づくり- (21) からむしを績む (5回連続) 6月27日(水)
(2回連続) 7月7日(日)、8月11日(日) 2回目以降の実施日は後日決定
- (4) 鉱物標本の作製 1月19日(日) (22) 木工芸 木のオブジェづくり ランドスケープ
スカルプチャー 7月7日(日)
- (5) 「真澄に学ぶ教室」講読会-県外の日記を読む- (23) ゼロからはじめるワラ仕事 (3回連続)
土曜日コース 5月25日、6月22日、7月27日、
9月28日、10月26日、11月23日、
12月21日、1月25日、2月22日、
3月22日 11月13日(水)、11月20日(水)、11月27日(水)
- 日曜日コース 5月26日、6月23日、7月28日、
9月29日、10月27日、11月24日、
12月22日、1月26日、2月23日、
3月23日 (24) 木工芸 Christmas ornament 12月8日(日)
- (6) 貝輪をつくる 7月21日(日) (25) 「真澄に学ぶ教室」講話会 6月30日(日)
- (7) 初心者向け 秋田の歴史教室 (中世編) (26) 秋田の先覚記念室講演会 10月27日(日)
(2回連続) 7月21日(日)、8月11日(日)
- (8) 初級編 秋田の縄文を学ぶ~レプリカ・レリーフ
を作りながら 7月28日(日)
- (9) 初級編 縄文のくらし(衣食) ~勾玉作り・弓矢と
火起こし体験を通して 8月4日(日)、8月18日(日)
- (10) 土器作り教室 (2回連続) 9月22日(日)、10月20日(日)
- (11) 三浦館と旧奈良家住宅の見学会 9月26日(木)
- (12) 60年前の秋田-モノで思い出を語り合う地域回想法- (全2回) 10月5日(土)、11月16日(土)
- (13) 初めての古文書解読 (6回連続) 10月6日、10月13日、10月20日、
11月3日、11月10日、11月17日
- (14) 真澄に学ぶ出張教室-菅江真澄入門- 10月20日(日)
- (15) 秋田の先覚を知る 11月2日(土)
- (16) 鹿の角でつくる釣針 3月2日(日)
- (17) 民俗学入門講座 (全2回) 3月8日(土)、3月15日(土)
- (18) 絵本制作 博物館歳時記 夏の章 (3回連続)
5月26日(日)、6月30日(日)、7月28日(日)
- (19) 綿を紡ぐ (8回連続) 6月5日(水)
2回目以降の実施日は後日決定
- (20) 秋田の絞り染め (藍染め)
- ◇イベント
(1) 「軒の山吹」再現 4月末~5月初
(2) ミュージアム・コンサート 令和7年3月
- ◇ミュージアム・トーク
- ◇展示付帯事業
- ◇館外講座
(1) 出前講座 (県庁出前講座)
(2) 出張講座
(3) 出前授業
(4) 連携講座
(5) その他
- ◇県内外の博物館等類似施設との連携
(1) 日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会
(2) 秋田県博物館等連絡協議会
(3) 秋田市内文化施設連絡会議 (みるかネット)
- ◇博物館友の会との連携
- ◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携
- ◇各種研修・実習等の受け入れ
(1) 博物館実務実習 (大学)
(2) 中堅教諭等資質向上研修
(3) 教育センターと連携した研修

▶ 広報・出版

◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施
展示・イベント広報
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善
ホームページ、フェイスブックページの充実
インスタグラムの開設
プレスリリースの充実
広報資料、出版物等の管理
館内掲示物の管理

- ・博物館ニュースNo.179・180
A 4判 8頁 各2,300部
- ・秋田県立博物館研究報告第50号
A 4判 100頁 500部
- ・広報紙「真澄」No.42 A 4判 8頁 1,000部
- ・真澄研究第29号 A 5判 100頁 400部
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展展示解説資料
A 4判 8頁 1,000部
- ・展示ポスター、広報フライヤー
企画展「美の交差点 博覧会とあきたの工芸」
特別展「世界の昆虫展」
企画展「稲穂の詩～秋田と米づくり～」
企画展「秋田の宝 県指定文化財展」

◇出版物の刊行・配布

- ・年報 令和6年度 A 4判 47頁 800部

▶ 学習振興

◇わくわくたんけん室の運営

- ・一般及び団体利用の促進
- ・室内・体験アイテムの保守管理
- ・休日イベントの計画立案
- ・体験アイテムの保守管理
- ・新アイテムの開発及び提供
- ・出張わくわくたんけん室の企画運営
- ・博物館ボランティアとの連携
- ・消耗品の補充管理
- ・展示室内のデジタル化の推進
- ・わくわく展示の企画・実施

◇学校団体の利用促進

- ・学校団体のセカンドスクールの利用の促進
- ・出前授業の広報及び利用の促進
- ・学校利用の集計及び報告
- ・保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の利用分析

◇その他、教育的支援

- ・中学校職場体験や高校生インターンシップ・ボランティア活動の受け入れ
- ・「教員のための博物館の日」の計画と実施
- ・大学との地域連携

▶ 分館・重要文化財旧奈良家住宅

主屋（重要文化財）を令和6年4月2日(火)から令和7年3月30日(日)まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間に公開をする。附属屋については、

内部公開の希望に応えるために令和6年9月26日(木)に公開し学芸職員が解説を行うなど、適宜公開する機会を設ける予定である。

Ⅲ 令和5年度事業報告

1 調査研究活動

各部門で文献調査、資料調査等を実施し、その成果を展示会、講演会、事業運営等に反映した。自治体等からの依頼による調査研究を実施した。研究報告49号に7

本、真澄研究に4本の論文・翻刻等を掲載した。研究報告会を2回開催した。

部門研究

◇加藤 竜（考古・館外連携）

- ・令和4年度の企画展「秋田の縄文遺産」での出展を契機として、柏子所貝塚出土貝輪に関する調査を行い、普及活動への応用を図った。調査では、考古ボランティアの協力を得ながら、海岸において貝輪素材となるベンケイガイ及びサルボウ類の殻を採集し、漂着した貝殻のサイズ分散や破損パターンについて検討を進めた。普及活動では、博物館教室「貝輪をつくる」を新たに加え、採集状況の記録や知見をプレゼンテーションに反映させるとともに、採集した貝殻の一部を貝輪製作体験に使用した。また、人文展示室可変展示「柏子所貝塚出土の骨角製品と貝製品」を教室プログラムの中で紹介し、貴重な貝輪の実見と、製作体験の機会を同時に提供することができた。こうした活動は市民団体の目に留まることとなり、能代市中央公民館における貝輪製作体験や、共催による「柏子所貝塚・麻生遺跡の遺物展と関連講演」の実施へと繋がった。
- ・その他、考古ボランティアと協力しながら、新たな博物館教室の開発に向け、鹿角製品の製作実験を行った。
- ・委員を委嘱されている大館市文化財保護審議会に出席した。

◇渡部 猛（考古・博物館学）

- ・深澤多市弘田柵跡関連史料の後藤寅之助・上田三平・喜田貞吉の3名の書簡の翻刻に取り組み、『研究報告』第49号に掲載した。
- ・「山下孫継資料」の整理作業を継続して行っている。
- ・博物館周辺の自然（植物・鳥・昆虫等）の動画を撮影し、16本の映像に仕上げ、わくわくたんけん室内で公開している。また、学校団体向けの動画を4本作成した。
- ・その他、考古関連の新聞記事を執筆した。

◇新堀道生（歴史）

- ・特別展「人形博覧会－土偶からリカちゃんまで－」の開催にむけて、日本の人形史に関する調査を行い、展

示会及び新聞記事などで成果を公表した。

- ・県文化財保護室の依頼により、にかほ市の寺社で什物を調査した。
- ・にかほ市平沢の廻船業・佐藤家の資料を調査し、同市主催の「やさしい古文書講座」でテキストに採用し内容を紹介した。
- ・茂木家資料の明治2～3年の日記を翻刻し研究報告に掲載した。

◇黒川陽介（歴史）

- ・企画展「秋田藩の絵図－描かれた城と城下町－」を4月末から開催し、展示作業や展示解説等を行った。
- ・横手郷土史研究会からの依頼を受けて、「絵図に描かれた横手城と横手城下町」というテーマで10月に講演を行った。
- ・過年度から実施してきた、守屋家資料所収の「土居崩」文書に関する調査結果を原稿にまとめ、3月発行の『研究報告』第49号で発表した。
- ・近年に受け入れた歴史部門の資料の仮整理作業（封筒詰め）を行った。

◇丸谷仁美（民俗・館外連携・博物館学）

- ・令和4年度から継続中の県文化財保護室の依頼による秋田の郷土食に関する調査ならびに報告書の作成を行った。
- ・八戸市教育委員会の依頼による八戸えんぶりの調査を行い、令和4年度に調査したえんぶり組についての中間報告書を作成した。
- ・箕の研究会による調査の協力を行い、太平箕についての資料を作成し、太平箕の行商記録について報告書を作成した。
- ・横手市文化財保護審議会ならびに湯沢市文化財保護審議会の委員を委嘱されているため、それらの会議にも出席した。
- ・4月から7月にかけてわくわくたんけん室のアイテムの見直しを行い、展示室の改変を行った。また令和4

年度から企画している休日イベントなどを定期的に行なった。

◇深浦真人（民俗）

- ・令和5年7月に開催した特別展「人形博覧会」に当館で所蔵しているこけしを展示した。展示するためにこけしを秋田県の木地山系、青森県の津軽系、山形県の肘折系、蔵王高湯系、山形系、宮城県の作並系、遠刈田系、鳴子系、弥治郎系、福島県の土湯系の系統別に整理した。
- ・今後の展示にむけて当館で所蔵している農具について調査した。使用方法はもちろんのことではあるが、同じ農具でも年代によって差異があることを明らかにしていきたい。

◇山本文志（工芸・館外連携・博物館学）

- ・レファレンスで寄せられた日本画、書簡等の調査を継続中である。
- ・木工芸の博物館教室、館外のワークショップにおいて、県産の雑木と蜜蝋を利用するため、制作方法、デザインプランを試行した。
- ・新たに絵画のワークショップを実施するため試作を行った。
- ・わくわくたんけん室の展示について問題点の改善にあたった。主にキャプションのデザインを統一感のあるものにした。
- ・館員のデザイン意識の向上を図るため、グラフィックデザインのワークショップを行った。
- ・県文化振興課等からの依頼で、若手アーティスト育成支援のための展示事業3件について指導した。アーティストの表現について調査し作品評を執筆した。

◇藤原尚彦（工芸・館外連携）

- ・横手木綿に関する文献資料を収集し、特に横手地域で行われていた「小帽子絞り」と「鹿の子絞り」の技術を主体とした藍の絞り染めに関する内容を整理した。
- ・デジタル解説コンテンツに追加する資料について文献資料を中心に調査し解説文等掲載内容をまとめた。
- ・委員を委嘱されている大潟村干拓博物館協議会に出席した。

◇斉藤洋子（工芸・館外連携）

- ・県庁出前講座「秋田のわざ」について4件の依頼を受け講演を行った。
- ・県内高校、大学から出前授業で3件依頼を受け、秋田

の工芸についての授業を行った。

- ・令和6年度企画展「美の交差点 博覧会とあきたの工芸」の開催に向け、資料調査や資料借用予定館との折衝を行った。

◇藤中由美（生物・館外連携・博物館学）

- ・館内に侵入した昆虫を調査し、侵入ルートと館内環境調査を行い、館内報告会にて報告を行った。
- ・鳥類資料のデータ整理を行った。
- ・地球規模生物多様性情報機構（GBIF）へ提供するデータ管理を行った。
- ・専門学校において、講座「秋田の自然」を担当した。
- ・デジタルコンテンツ資料の昆虫解説を担当した。

◇三浦益子（生物・博物館学）

- ・植物標本整理ボランティアの協力のもと、さく葉標本の整理作業を行った。
- ・デジタルコンテンツ充実のため、アキハクコレクションとして収蔵資料（骨格標本）の解説を作成した。
- ・セカンドスクールの利用で、特別支援学校用のプログラム（骨格・植物の匂い等）を企画・実施した。
- ・わくわくたんけん室のアイテム（ブナ科の植物、にょいのかた）の考案・作製及びリニューアルを行った。
- ・わくわくたんけん室の新しいイベント（松ぼっくりのミニクリスマスツリー、天然石のチャーム作り）を考案し、展示室や秋田の自然と関連させて実施した。

◇渡部 均（地質・館外連携）

- ・秋田県内の球状炭酸塩コンクリーションについての調査研究を継続した。令和5年度は男鹿半島鵜ノ崎海岸の通称「小豆岩」について、野外調査、炭素量測定を行い、研究報告49号執筆の一部を担当した。また、男鹿市から寄付された小豆岩輪切り標本（長径80cm）を自然展示室内に展示した。
- ・石灰石鉱業協会の依頼で男鹿半島の地質巡検案内を行った。
- ・羽後町歴史民俗資料館の依頼で、資料館の特別展「ウゴイルカのいた海」の展示企画に協力し、ウゴイルカやデスモスチルスをはじめ、羽後町周辺の須郷田層産化石の列品や解説文の作成を行った。
- ・河辺市民サービスセンター入口で展示していたセミクジラ肋骨化石について、センター改修により展示できなくなるということから当館で受け入れることになり、化石標本の現状確認、書類手続等を行い、収蔵庫に搬入した。

- ・令和5年度企画展「大こうぶつ展」開催のため、展示構成検討、展示資料の調査と収集、他施設からの借用、展示室内の暗室等の造作準備を行い、多数の鉱物・鉱石標本等を展示した。

◇鈴木照洋（地質・館外連携）

- ・秋田県内の鉱山跡地等の調査及び、資料の採取を行った。令和5年度は県内15鉱山で調査を行った。
- ・企画展「大こうぶつ展」の準備で、小坂精練、阿仁異人館伝承館、秋田大学鉱業博物館から、資料の借用を行った。
- ・自然展示室の展示替えコーナーで「地球が作り出した鉱山の芸術品」を行った。
- ・白神山地世界遺産センター主催の「白神鉱物探し&川探検」に講師として参加した。
- ・大館郷土博物館主催の「おおだて博物館講座」に講演者として参加した。
- ・わくわく探検室の双眼実体顕微鏡用の鉱物試料の追加を行った。
- ・秋田大学鉱業博物館の鉱山資料館の標本等の記載事業に参加した。

◇齋藤知佳子（先覚）

- ・令和5年度開催の秋田の先覚記念室企画コーナー展「勝平得之一得之・秋田への想いー」に向けて、過去の展示報告や館蔵資料をリストアップするとともに関連の資料や最新の研究成果について調査した。これにより、農民美術運動、ブルーノ・タウトとの出会い、地元秋田でのネットワークを三本柱として展示構成することができた。また、調査を進めるうちに勝平得之が農民美術運動の本部に送った書簡や角館町の日本画家田口秋魚に送った書簡66通も明らかになり、来館者への情報提供に生かすことができた。

◇千田育栄（先覚）

- ・令和5年度秋田の先覚記念室企画コーナー展「勝平得之一得之・秋田への想いー」について、借用した関連資料の状態確認およびリスト作成を行った。また、本展示の解説書執筆の補助と展示業務を補助した。
- ・「小野進と秋田犬」について資料調査を行い、その結果を博物館ニュースでのコラムの執筆および秋田の先覚記念室可変展示として発表した。
- ・サキガケ・アド・ブレーンで毎週発行しているフリーペーパー『マリ・マリ』について、月1回掲載されている「秋田の先人名鑑」の原稿の執筆と、それに伴う資料調査を行った。
- ・その他、先覚に関する新聞記事の執筆と、先覚部門のレファレンス対応をした。

◇角崎 大（真澄・館外連携）

- ・一般団体からの依頼のもと、男鹿市周辺で真澄が記録した内容についての講話を行った。
- ・真澄企画コーナー展「真澄採録怪異譚」に係る諸業務を行った。
- ・真澄に学ぶ講演会の開催準備と実施に係る業務を行った。
- ・大館市立栗盛記念図書館からの依頼のもと、同館での出張展示に係る業務を行った。
- ・真澄企画コーナー展「未完の地誌を紐解く」に係る諸業務を行った。
- ・八郎潟町立図書館からの依頼のもと、八郎潟町周辺で真澄が記録した内容についての講話を行った。
- ・広報紙「真澄」41号及び「真澄研究」28号の編集・校正作業を行った。
- ・真澄企画コーナー展「真澄が記録した鹿角郡」に係る諸業務を行った。

調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

令和4年度から報告会の持ち方を見直し、情報や方法論の共有・継承、相互研鑽を目的として、通年適宜開催している。令和5年度は以下のように開催した。

館内報告会1

日時 令和5年4月25日(火) 15:00~16:30

場所 大会議室

- ・秋田の歴史と民俗文化（県立大学講演の予備報告）

新堀道生

館内報告会2

日時 令和6年3月8日(金) 15:00~16:00

場所 大会議室

- ・侵入昆虫調査の結果とIPM

藤中由美

・“黒鉱鉱床”－学術的価値と資源学的価値－

鈴木照洋

研究報告等の発行

◇『研究報告』第49号

・男鹿半島鶴ノ崎における中新統産炭酸塩コンクリーションに含まれる鯨骨化石およびコンクリーションの炭素源と形成過程

渡部 晟・長澤一雄・渡部 均

・ナウマンヤマモモの一産地“秋田県仙北市西木町下楡木内土熊沢”の植物化石

五井昭一・渡部 均・鈴木照洋

・守屋家資料の秋田藩「土居崩」文書－城郭修補申請に係る史料の分析と考察－

黒川陽介

・秋田市における石敢當群の成立に関する覚え書き

伊藤 真

・野良着「タモンペ」の再現－秋田市および男鹿南秋

地域の下半衣の比較を通して－

丸谷仁美・佐藤里美

・〔翻刻〕深澤多市払田柵跡関連史料 渡部 猛

・〔翻刻〕茂木久栄家資料「日記帳」(明治二～三年)
新堀道生・秋田古文書同好会

◇『真澄研究』第28号

・世界遺産と菅江真澄－白神・縄文・平泉－

石井正己

・自筆本における他筆訂正と付箋 松山 修

・現代語訳《ふでのまにまに》第四巻 嵯峨彩子

・随想「かなせのさと2023」 松山 修

2 資料収集管理活動

令和5年度中に寄付等で新たに登録された資料は30件407点であった。生物部門ではセンザンサンショウウオの模式標本、先覚部門では企画コーナー展「勝平得之一得之・秋田への想いー」に関連して勝平得之の作品及び関連資料など、貴重な資料の寄付があった。また、地質部門では企画展「大こうぶつ展」の展示に関わる標本の

寄付等により資料の充実がはかられた。

令和5年度は歴史収蔵庫内の棚の移動を実施し、今後の収納スペースの拡張や結露対策をすることができた。また、令和4年度に導入した冷凍庫を活用し、植物標本、剥製等の殺虫処理を実施した。

資料収集・整理・保存・管理

◇令和5年度収集資料一覧

部門	資料名	数量	受入区分
歴史	DD56形ディーゼル機関車2号機車番プレート 他	2	寄付
	蚕体解剖図、火の出るポンプ	3	寄付
	役行者像、天神像 他	23	寄付
	秋田市旭南鹿嶋神社関係資料	1	寄付
	阿弥陀如来像 他	4	寄付
	戦前・戦中関連資料	1	寄付
	過去帳、古文書類	2	寄付
	佐竹本三十六歌仙木版模写絵巻	2	寄付
	日中戦争愛国写真カード 他	17	寄付
	土器・石器・書簡等資料	5	寄付
民俗	LPレコードとジャケット、記章 他	7	寄付
	五月人形	1	寄付
生物	サンヨーミニアイロン (A-50型)、箱	2	寄付
	センザンサンショウウオ (ホロタイプ) 他	5	寄付
	植物 (さく葉標本)	190	寄付

部門	資料名	数量	受入区分
地質	鶴ノ崎海岸コンクリーション片 (クジラの化石内包)	1	寄付
	北海道石、カルパチア石	2	寄付
	アンモナイト化石、亀甲石 他	4	寄付
	白子森鉱山産菱マンガン鉱 他	6	寄付
	植物化石	12	寄付
	鉱石花瓶 (尾去沢鉱山) 他	6	寄付
	植物化石 (ウルシ属一種)	1	採集
	黒曜石	1	寄付
	方解石 (大・中)、菱マンガン鉱 他	6	寄付
	セミクジラ肋骨化石 他	10	寄付
先覚	『生きている兵隊』石川達三著 他	2	寄付
	『國民女聲合唱曲集』	1	寄付
	館岡栗山掛軸 他	3	寄付
	勝平得之作品及び関連資料	86	寄付
真澄	那珂通博 (碧峰老人) 書	1	寄付
	合計 (件数)	407	(30)

◇令和5年度資料収集状況

令和6年3月末日現在の資料総数 () は令和5年度分

	購入	寄付	委託製作	所管換え	採集	その他	合計
総集	2,917	226	626	18	0	0	3,787
美術	415	25	2	8	0	0	450
工芸	7,371	6,411	1	13	0	0	13,796
歴史	5,125	3,762 (55)	113	184	0	73	9,257
考古	245	2,181 (5)	31	190	0	0	2,647
民俗	2,280	8,536 (10)	120	36	4	0	10,976
生物	17,345	99,649 (195)	7,743	36	1,658	0	126,431
地質	3,556	3552 (48)	1,408	19	9,373 (1)	0	17,908
先覚	131	5,543 (92)	12	0	0	2	5,688
真澄	143	1,780 (1)	11	300	0	0	2,234
合計	39,528 (0)	131,665 (406)	10,067 (0)	804 (0)	11,035 (1)	75 (0)	193,174 (407)

◇令和5年度資料特別利用状況

目的別

利用者	県内外別			目的別							
	県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他	
博物館	都道府県立	2	1	3	0	0	1	0	1	0	0
	市町村立	4	0	4	2	0	0	0	2	0	0
	その他	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
企業	出版	12	32	44	43	0	0	0	2	0	0
	映像	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	T V	4	3	7	0	7	0	0	0	0	0
	その他	2	4	6	1	0	5	0	0	0	2
教育機関	大学	0	10	10	0	0	0	0	0	9	0
	その他	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0
国	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0
市町村	6	0	6	0	0	2	0	3	0	0	0
個人	13	6	19	4	0	0	0	0	15	0	0
計	43	60	103	51	7	9	0	8	25	2	0

◇令和5年度館蔵資料貸出状況

貸出先	県内外別			目的別				
	県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等	4		4	6				6
教育機関	大学							0
	高等学校							0
	中学校							0
	小学校							0
	その他							0
研究所・文化団体								0
出版報道機関								0
都道府県								0
市町村	2		2					0
個人								0
その他								0
計	6	0	6	6	0	0	0	6

部門別

部門	利用数	利用内容						
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	デジタル再利用	その他
工芸	0	0	0	0	0	0	0	0
考古	4	0	3	0	0	0	3	1
歴史	33	2	29	16	2	4	5	1
民俗	7	1	5	2	0	0	2	0
生物	2	0	1	1	0	0	0	1
地質	2	1	2	1	0	0	0	0
先覚	10	2	7	4	2	1	3	1
真澄	41	1	30	31	2	1	15	5
その他	1	0	0	0	0	0	0	1
計	100	7	77	55	6	6	28	10

※利用内容は重複があるので、実際の利用数より多い。
 ※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者数の合計とが異なっている。

▶ データベース化の推進

新たに運用が開始されている、秋田県立博物館のデジタルアーカイブ、「アキハクコレクション」の充実を図るため、令和5年度は各部門10資料ずつを新たにアップロードした。また、アップロードの作業を各部門で行

えるようにし、今後も容易にデジタルコンテンツのラインナップを追加できるようにした。今後も、秋田県立博物館及び秋田県立図書館のデジタルアーカイブの充実を図っていく。

▶ 燻蒸消毒および虫・害菌管理

燻蒸作業は令和5年9月4日(月)～9月11日(月)まで行い、期間中全館休館とした。アルプ(主成分:酸化プロピレン)により、1階真澄収蔵庫、2階先覚収蔵庫、3階収蔵庫(委託収蔵庫、工芸収蔵庫、歴史収蔵庫、民俗

収蔵庫、生物収蔵庫)を48時間密閉燻蒸した。また、秋博協加盟館から受け入れた資料も同時に燻蒸した。

令和5年の小型燻蒸機の稼働は無かった。

3 展示活動

令和5年5月に新型コロナが5類感染症へ移行し、来館者数がコロナ前に戻りつつある中での開催となった。

企画展「秋田藩の絵図―描かれた城と城下町―」では秋田藩の城絵図や関連資料を一堂に集め、城郭の特徴や城下町の変遷を読み解き、その魅力を広く来館者に伝えた。絵図に描かれた久保田城下と秋田市街地の現況をモニターにより比較してもらう試みは来館者からも好評であった。

特別展「人形博覧会―土偶からリカちゃんまで―」では、縄文時代の土偶から、土人形、こけし、アニメのキャラクターに至るまで、人形が人々の生活や文化にどのようなかかわってきたのかを時代の変遷とともに紹介した。思い出の人形や人形への想いに関するエピソード

を県民から広く募集し、展示の中で紹介しながら現代に生きる人々にとっての人形の意義についても考える展示となった。

秋田県教育委員会主催の企画展「HOTTA―『払田柵跡』発掘半世紀―」では、県埋蔵文化財センターが払田柵跡調査事務所の半世紀にわたる調査成果を生かして、本県および東北地方の古代史における払田柵跡の重要性について、分かりやすく紹介した。

企画展「大こうぶつ展―鉱物を楽しむ5つのメニュー―」では、秋田県産の鉱物標本を一堂に集め、鉱脈鉱床の成り立ちから身近な宝石に至るまで、さまざまな切り口で鉱物の魅力に迫った。世代を問わず来館者はリピーターが多く、鉱物への関心の高さが伺えた。

企画展ほか

◇企画展「秋田藩の絵図―描かれた城と城下町―」 令和5年4月29日(土・祝)～6月11日(日)

<展示概要>

県内には江戸時代に作成された多くの絵図が現存しているが、その一例が城絵図(城郭絵図・城下絵図)である。居城の久保田城に加えて横手城と大館城も支城として存続した秋田藩においては、それぞれの城絵図が作成されている。本展では、県内に現存するこれらの城絵図に加え、江戸初期に城郭が破却された後も城下町としての特色を残す角館や湯沢の絵図なども取り上げ、来館者へ紹介することとした。

城絵図を通じて城下町の成り立ちや秋田の城郭の特色を理解してもらうことが展示の主眼ではあったが、より興味を持って観覧してもらえるように、城跡からの出土品(陶磁器片や木製品など)や古文書などの関係資料も紹介した。また導入部として位置づけた第1章では、秋田藩領全体を描いた六郡絵図や他藩との境界部を描いた縁絵図(境絵図)などを展示して、絵図全般に対する関心を高めてもらえるように努めた。

さらに、江戸時代の久保田城下町がその後どのような変貌を遂げたか、という観点から設定した第5章では、明治～大正時代の地図などを資料として取り上げ、展示全体のまとめとした。これに加え、展示室内には2台のモニターを設置して、絵図に描かれた久保田城下と秋田市街地の現況とを来館者に比較してもらえるような試みも取り入れた。

展示室内では、時間をかけて一点一点の資料をじっくりと鑑賞している来館者の姿が多く見受けられた。また展示期間中は計5回の解説会を計画したが、予想以上に多くの参加者が集まり、人々の関心の高さを改めて実感した。



展示の様子

<展示構成と主な展示資料>

第1章 国絵図のかけら ―藩領と境目―

秋田領六郡絵図、秋田新庄仙台南部境絵図、六郡仮下御絵図 など

第2章 藩主のお膝元 ー久保田ー

御城下古絵図、羽州久保田大絵図、外町屋敷間数絵図、出羽国秋田居城絵図、御城中略図 など

第3章 残された支城 ー横手と大館ー

横手川開鑿直後の下内町絵図、横手絵図、阿桜城（横手城）全景、大館城下絵図、大館城跡出土品 など

第4章 城のない「城下町」

湯沢外町絵図、仙北郡角館士民居所図、茂木屋敷跡出土品 など

第5章 近代を迎えた久保田

秋田庁下市街図、秋田県公園絵図、秋田市詳密地図など
担当：黒川陽介（歴史）

◇特別展「人形博覧会ー土偶からリカちゃんまでー」 令和5年7月1日(土)～8月27日(日)

<展示概要>

縄文時代の土偶から土人形、こけし、近代の着せ替え人形、マンガ等のキャラクター人形に至るまで、人形が祈りや愛着を託されてきた存在であることを紹介し、人々の生活や文化に人形がどのように関わってきたかを紹介した。

県民の人形愛好の状況調査として、人形にまつわるエピソードを募集し、人形の思い出、好きな人形の魅力、体験等の話題を集め、展示会場で紹介した。

会場では観覧者それぞれの愛好する人形を楽しむ姿がみられ、特定の「押しぬい」を目当てにした遠方からの来館もあった。

<展示構成>

人形を見る目

信仰と人形

祈りから愛玩へ

ドールワールドの拡張

<展示資料>

土偶、人形（ひとがた）、形代、人形道祖神、雛人形、武者人形、押し絵、八橋人形、小坂人形、中山人形、こけし、青い目の人形、ぬいぐるみ、リカちゃん人形、シルバニアファミリー、ウルトラマン、仮面ライダー、その他マンガ・アニメ・ゲーム由来の人形等、総数約850点。

<付帯事業>

・八橋人形の絵付け体験

十二支の絵付け体験を行った。

日時：7月29日(土)、7月30日(日)

会場：わくわくたんけん室

指導：八橋人形伝承の会

・猿倉人形芝居の公演

秋田県指定無形民俗文化財・猿倉人形芝居の木内勇吉一座による公演を開催した。

日時：8月26日(土) 13:30～15:00

演目：「三番叟」「石見重太郎（大蛇）」「鑑鉄坊さんの花笠踊り」



展示の様子

担当：新堀道生（歴史）

◇企画展「HOTTAー「払田柵跡」発掘半世紀ー」 令和5年9月23日(土・祝)～11月5日(日)

<展示概要>

半世紀にわたる払田柵跡調査事務所の発掘調査の成果や関連する研究をとりまとめ、払田柵跡の成り立ちや移り変わり、その性格に関する学説、近年の発掘情報等を紹介した。企画は主に県埋蔵文化財センターが行った。

主催：秋田県教育委員会

共催：秋田市、大仙市、横手市教育委員会、美郷町教育委員会

協力：雄勝城・駅家研究会

<展示構成>

序章 払田柵跡のアウトライン

第1章 払田柵跡の発見

- 第2章 払田柵跡の変遷
- 第3章 払田柵跡を巡る遺跡群
- 第4章 研究者は語る－払田柵跡を巡る学説史－
- 第5章 払田柵とはなにか
- 終章 払田柵跡のその後と現在、そして未来へ

<主な展示資料>

土師器、須恵器、墨書土器、施釉陶器、柵木、築地堀取断面、木製品、木簡、漆紙、鉄製品、外柵南門復元模型、文献書籍等。

<付帯事業>

- ・講演会「出土文字資料から見た払田柵跡」
 講師 三上喜孝氏（国立歴史民俗博物館教授）
 日時 10月14日(土) 13:30～15:00
 会場 博物館講堂
- ・ギャラリートーク
 講師 県埋蔵文化財センター職員
 日時 会期中日曜日 各13:30～14:30



展示の様子

担当：新堀道生（歴史）

◇企画展「大こうぶつ展－鉱物を楽しむ5つのメニュー－」

令和5年11月23日(木・祝)～令和6年4月7日(日)

<展示概要>

秋田県民歌に「地下なる鉱脈 無限の宝庫」とうたわれたように、秋田県はかつて日本有数の鉱山県であった。現在それらはすべて閉山しているが、当館には県内鉱山産の鉱物標本が数多く収蔵されている。この企画展では、それら秋田県産の鉱物及び日本や世界のたくさんの鉱物をもとに、鉱物の魅力を5つのメニューで紹介した。鉱物が大好き！というスタッフが、子どもから大人まで興味を持てるような展示をめざした。

展示期間が4ヶ月以上であり、その間に受け入れた標本等を追加で展示し、資料総数は約1200点に達した。大部分は館蔵資料とスタッフの個人コレクションであるが、それらに加えて秋田大学鉱業博物館、阿仁郷土文化保存伝承館、小坂製錬株式会社から貴重な標本等を借用して展示した。期間中入館者は17,705人。

<展示構成>

メニュー1 美しい結晶の世界

導入として、鉱物の魅力を感じてもらえるように、大きくて美しい鉱物結晶を展示した。やや暗くした室内で、間隔を開けて配置した鉱物にスポットライトを当てて浮かび上がらせ、いろいろな角度から鑑賞できるようにした。

メニュー2 鉱物を知る

鉱物の形や色、化学組成や産地など、代表的な標本を

展示して、鉱物ってなに？に答えるコーナーをめざした。色のコーナーでは岩絵の具になる鉱物や、日本画制作用具を展示した。化学組成による分類では、約120個の鉱物標本をガラス面に平行になるように並べ、図鑑を見るような配置とした。また、光る石のコーナーでは、展示室内に暗室を作り、ブラックライトによって蛍光を発する鉱物を多数展示した。

メニュー3 たからのやま 秋田の鉱山

秋田県の鉱山について、そのなりたちを紹介し、秋田県産の鉱石・鉱物を多数展示した。鉱脈鉱床のコーナーでは尾谷沢鉱山、阿仁鉱山など、秋田県の北から南まで鉱山ごとに鉱物標本を配置した。黒鉱鉱床のコーナーでは鉱床の構造を解説し、黒鉱、黄鉱、珪鉱やチムニーなど、代表的な鉱石等を展示した。また、トピック展示として秋田県産の天然記念物指定鉱物、秋田県で発見された新鉱物を紹介し、さらに、阿仁鉱山絵巻（長さ約6m）を、全場面を見られるように展示し、各場面の解説を加えた。

メニュー4 メタル 金属アラカルト

生活になくてはならない金属について、金属を含む鉱物と、その金属を用いた製品と利用方法を紹介した。歴史部門の慶長一分金、工芸部門の秋田銀線細工や脇差なども展示し、総合博物館ならではの展示とした。また、小坂製錬株式会社から借用したスマホ・ガラケーや廃

基板を展示し、金属資源のリサイクルについて紹介するコーナーも設けた。

メニュー5 宝石とその原石

誕生石として知られる宝石を、原石とともに誕生月ごとに展示した。また、二酸化珪素からなり、各種の宝石に加工される石英、玉髄、瑪瑙、オパールを紹介した。

＜付帯事業＞

ギャラリートークを毎月1～2回実施し、来館者に鉱物の魅力を解説した。また、わくわくたんけん室と連携して、「ワイヤーで作る天然石のチャーム」、「てんこく」、「鉱物くらべにちょうせん」など、鉱物に触れたり調べたりする企画を実施した。



展示の様子

担当：渡部 均・鈴木照洋（地質）

◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

〔第90回企画コーナー展〕

真澄採録怪異譚 - ささきゑびす氏の絵画とともに -
令和5年7月15日(土)～9月18日(月・祝)

真澄が採録した様々な記録の中には、不思議で怪しげな内容のものが多く含まれている。展示ではそうした「怪異譚」について、県内の民俗行事などを題材にイラストを制作されている、ささきゑびす氏の絵画とともに紹介した。展示の目玉資料として、怪異譚の一つに登場する茶の湯で用いる「釜」の実物を紹介した。現存する実物資料を展示することによって、怪異譚の世界をよりリアリティを持って感じてもらうことができた。

〈展示構成〉①有耶無耶の関、②男鹿のモレビ、③太平山の三吉、④化物坂、⑤影捕沼の化魚、⑥音鳴らす釜、⑦姫ヶ岳、⑧川熊

〈展示資料〉18点

- ・ ささきゑびす氏絵画 8点
- ・ 鉄製手取釜（個人蔵）
- ・ 《秋田のかりね》、《粉本稿》、《筆のまにまに第5巻》（以上、大館市立栗盛記念図書館蔵自筆本）
- ・ 《月のおろちね》、《軒の山吹》、《阿仁の沢水》、《雪の出羽路雄勝郡第2巻》、《雪の出羽路平鹿郡第1巻》、《月の出羽路仙北郡第5巻》（以上、館蔵写本）

〔第91回企画コーナー展〕

未完の地誌を紐解く - 雪の出羽路雄勝郡と勝地臨毫雄勝郡 -
令和5年11月25日(土)～1月21日(日)

地誌《雪の出羽路雄勝郡》は、文化11～12年(1814～15)、真澄が雄勝郡（現在の湯沢市・羽後町・東成瀬村周辺）の巡村調査をした際の記録である。ただ、これはあくまで草稿に過ぎず、真澄の記録の特徴である図絵も伴われていない、未完成のものであった。しかし、その巡村調査の際に描かれたと思われる図絵集《勝地臨毫雄勝郡》の存在が、この未完の地誌に光を当てる。展示では《雪の出羽路雄勝郡》から特色ある内容をピックアップし、その内容と関連した、《勝地臨毫雄勝郡》全七冊の中に描かれている図絵とを照らし合わせて紹介した。

〈展示構成〉①地誌の構想と実際、②《雪の出羽路雄勝郡》の特徴、③《雪の出羽路雄勝郡》編纂に係る概略図、④《雪の出羽路雄勝郡》の現状、⑤《雪の出羽路雄勝郡》地図、⑥図絵集《勝地臨毫雄勝郡》の存在

〈展示資料〉11点

- ・ 《雪の出羽路雄勝郡》1・2・3・4巻
- ・ 《勝地臨毫雄勝郡》1・2・3・4・5・6・7巻
（以上、館蔵写本）

〔第92回企画コーナー展〕

真澄が記録した鹿角郡

令和6年3月23日(土)～5月12日(日)

真澄は「鹿角郡」（現在の鹿角市・小坂町）にも足を運んでいる。真澄が訪れた当時、鹿角郡は秋田藩領ではなく盛岡藩領であった。真澄は、延べ3回鹿角郡を訪れており、それぞれその時の様子を、天明5年（1785）の

日記《けふのせばのの》、文化4年（1807）の日記断片《錦木》、同年日記《十曲湖》、文政4年（1821）の雑纂《筆のしがらみ》中にある日記断片《上津野の花》などに記録している。展示では、それらの記録中からいくつかの内容をピックアップし、大館市立栗盛記念図書館蔵の自筆本や館蔵写本とともに展示紹介した。

〈展示構成〉①「けふのせばのの」とは、②鹿角紫根染、③錦木伝説、④十和田湖と周辺の滝、⑤尾去沢鉱山と花

輪の里

〈展示資料〉8点

- ・《けふのせばのの》、《陸奥国毛布郡一事》、《錦木》、《筆のしがらみ》、《菅江真澄翁画》

（以上、大館市立栗盛記念図書館蔵自筆本）

- ・紫根染小桝絞布地、紫根染立杵絞布地（館蔵実物）
- ・《十曲湖》（館蔵写本）

担当：角崎 大（真澄）

◇秋田の先覚記念室企画コーナー展「勝平得之ー得之・秋田への想いー」令和5年9月24日(日)～11月26日(日)

〈展示概要〉

令和5年度の企画コーナー展では、「秋田に生き秋田を描く」というキャッチコピーで常設展示されている版画家勝平得之の生涯と功績を取り上げた。

今回の展示では、勝平得之が県内各地をスケッチし、版画作品の中にも数多く登場する「秋田の民俗繪詞 サンペ」を当館のボランティアわらチームに再現してもらい大判の図版と共に展示した。展示室全体がどこか懐かしく、優しい感じで包み込まれると好評だった。ギャラリートークや展示パネルでは、「美術の勉強をしていない者でも美術作品を制作してよい」と得之の背中を押してくれた山本鼎が提唱した農民美術運動について詳細に紹介するとともに、生涯に渡って秋田を離れることがなかったにもかかわらず、秋田の風俗の美しさを再発見し、秋田の風物を描くことを信念とした勝平得之の郷土秋田への想いについて紹介した。来館者からは、これまで見てきた勝平得之展とはひと味違って面白かったという感想を頂くことができた。

本展の開催にあたって上田市立美術館学芸員館長補佐・教育普及担当係長小笠原正氏、秋田県立近代美術館元副館長小笠原光氏、仙北市立角館樺細工伝承館元館長中田達男氏、秋田市立赤れんが郷土館元学芸員加藤隆子氏、仙北市の鈴木亮子氏、八田菓子舗、秋田県立近代美術館、秋田市立赤れんが郷土館、秋田県立図書館、増田地域局にご支援ご協力いただいた。

〈展示構成〉

- 1 版画家の道への助走
- 2 得之を導く農民美術運動
- 3 二足のわらじを履く
- 4 版画家勝平得之誕生
- 5 地元秋田から世界へ
- 6 地元のネットワーク
- 7 版画に込めた想い

〈付帯事業〉

秋田の先覚記念室講演会「ふるさとへのまなざしー版画家勝平得之と秋田の風俗ー」

10月29日(日) 14:00～15:30

講師：加藤隆子氏（秋田市立赤れんが郷土館元学芸員）
約40名の方に御参加いただいた。勝平得之がふるさと秋田に向けた思いについて展示資料と関連付けながら講演していただき秋田の風俗版画家について認識を深める機会となった。



展示の様子

担当：齋藤知佳子（先覚）

◇可変展示

〔自然展示室〕

「地球が作り出した^{ヤマ}鉱山の芸術品」

令和5年10月20日(金)～令和6年4月7日(日)

鉱山で採掘された鉱物の標本（水晶の結晶や宝石など）は比較的目にするところがある。しかし鉱山で採掘された鉱石を見る機会は非常に少ない。また、鉱石といっても様々な種類のものがある。しかしながら、それらの違いを標本で見分けるのは難しい。実際に、研究機関などでは、鉱石を切断し産状（どのような鉱物がどの様に含まれるのか）の観察を行う場合が多い。

今回の展示では、鉱石や脈石を切断し模様（構造や組織）が良く見えるようにする。また鏡面加工を施すことで誰もが見やすく、そして美しく見せる。また、「なぜそのような模様になったのか」や「どのような鉱石なのか」などを学ぶことができるような展示を行った。



展示の様子

担当：鈴木照洋（地質）

〔人文展示室〕

「柏子所貝塚出土の骨角製品と貝製品」

令和5年8月1日(火)～令和6年2月25日(日)

秋田県を含め、日本海側においては数少ない貝塚出土資料のうち、普段公開されていない柏子所貝塚出土資料を能代市から借用し、紹介した。特に貝製品（貝輪）については完成品のみならず未製品と製作用具を加え、全国でも屈指の貝輪製作遺跡であることを示した。

<展示資料> 103点

骨角製品（鎌・根鋏み・釣針・刺突具・籠状骨器・鯨骨製品・髪針・小玉状垂飾品・管状垂飾品・猪牙製垂飾品・叉状角製品）、貝製品（カキ製貝輪・サルボウ類製貝輪及び未製品・ベンケイガイ製貝輪及び未製品）、砥石



展示の様子

担当：加藤 竜（考古）

〔ふるさとまつり広場〕

令和5年度は、民俗部門が季節ごとにテーマを決め、秋田の風俗や祭り・行事についての展示を行った。

・子どもの成長を願う～天神人形～

令和5年4月20日(木)～6月20日(火)

・夏のまつり～七夕絵どうろう～

7月6日(木)～8月29日(火)

・災いを防ぐ～ショウキサマ～

9月28日(木)～11月14日(火)

・正月の来訪神～ナマハゲ～

12月7日(木)～令和6年2月6日(火)

・春の訪れ～ひな人形・押絵～

2月22日(木)～4月2日(火)



「ナマハゲ」展示の様子

担当：丸谷仁美・深浦真人（民俗）

◇出張展示、他施設との連携展示

- ①「美の國の名残・選+」 (秋田県立図書館)
令和5年4月1日(土)～5月28日(日)
観覧者数：4,974人

博物館の資料収集に当たってきた歴代学芸員の審美眼に敬意を表し、令和3年の企画展「美の國の名残」で収蔵資料を美という観点から紹介した。その際展示した資料の中から厳選した20点に、現在調査中の資料3点を加え「美の國の名残・選+」として再構成し、図書館で展示構成した。展示するキャプションは挨拶文と3つのコーナー解説にとどめ、詳細な解説資料として企画展開催時のパンフレットと番外編の資料解説を配付した。会

場には博物館のような照明設備がないため、展示構成には苦慮した。

- ②「真崎コレクション展 菅江真澄著作の紹介」
(大館市立栗盛記念図書館)
令和5年10月27日(金)～11月5日(日)
観覧者数：59人

- ③「昔の道具－食卓の風景－」(秋田県立農業科学館)
令和6年3月8日(金)～5月6日(月)
観覧者数：5,969人

▶ 展示室の保守管理状況

展示室の温湿度計の測定、照明、映像、音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。コロナ禍で行った非接触型展示は来館者に好評で、不具

合なく動作している。一方、博物館リニューアル時から設置されている映像機器や灯具は頻繁に不具合が生じ、老朽化が顕在化している。

▶ 解説案内サービス業務

解説員研修、企画展研修、月例会の司会や記録、一般団体対応、情報収集、Q&A作成を分担して実施した。新型コロナウイルスの流行とともに中止していた解説員館外研修は4年ぶりに再開し、令和5年9月4日(月)、生物部門による県立小泉瀉公園内を巡りながらの植物観察と、民

俗部門による旧奈良家住宅についての勉強会を行った。館外研修の後半は、解説員同士のミーティングの時間を設け、日ごろの業務で感じたこと等を話し合った。解説員同士の相互理解を深める機会となった。

▶ 分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を令和5年4月1日から令和6年3月31日まで公開した。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開した。9月28日は秋田市金足黒川

にある三浦館（重要文化財）の見学とあわせ、学芸職員が母屋および附属屋の解説を行った。

4 教育普及活動

館内及び館外講座については、令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、各講座を予定通り実施することができた。博物館教室・ミュージアムトーク・企画展付帯事業の各館内講座は前年度と比べて実施回数及び参加者数が増加し、特に前年度1回のみで開催に留まった企画展付帯事業は、人形芝居の上演や、わくわくたんけん室内での体験型イベントなどが好評を博した。館外講座は出前講座・出張講座とも実施回数・

参加者数とも3倍ほど増加しており、感染症の収束が目に見える形で普及活動の実績に現れている。

イベントは、新型コロナウイルス感染防止の観点から前年度中止となった「軒の山吹」再現をアイリスの会の協力を得て4月下旬に実施し、3月のミュージアムコンサートも無事開催することができた。

博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会の役員会・総会を4年ぶりに対面形式で開催し、

燻蒸消毒サービスを例年通り実施したほか、実務担当者研修会を2日間にわたって開催することができた。また、協議会のホームページ「あきた文化的施設案内処」を大幅に刷新し、名称も「あきたミュージアムポータル」に改め、広報機能の強化に努めた。秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）の事業については、大雨災害のため会議は中止となったが、イベント通信の発行と、ギャラリートークセッションを実施することができた。

「友の会」は、長らく役員会・総会の開催がなく、役

員改選の見通しが立っていなかったが、年度末に新規役員候補者と打合せの場を設け、次年度の開催に向けて動いている。友の会に属する各ボランティアについては、従前の活動を再開している。「アイリスの会」は、各ボランティアがわくわくたんけん室内でのイベント実施、博物館教室・セカンドスクールへの支援等を活発に行い、10月には全体として久しぶりに館外での研修会を実施した。

また、大学生の博物館実務実習や視察・研修について対応した。

普及事業

◇館内講座

平成30年度より、博物館教室をはじめ館内で行われる普及活動全般について、普及・広報班が取りまとめて把握する形としている。内訳は以下のとおり。

①博物館教室	74回	793名
②イベント等	2回	380名
③展示付帯事業等	11回	270名
④ミュージアムトーク	23回	370名

①博物館教室の内訳は別表のとおり。令和5年度は長引く猛暑のため、受講者の健康や安全を考慮し、外で活動する講座を延期する措置をとったことがあったが、中止することなく実施できた。

	教室名	回数	人数
1	化石と地層の観察会	2	34
2	簡単！葉っぱの標本づくり	1	6
3	昆虫教室～採集と標本づくり～	2	28
4	アリの観察会	1	7
5	砂の中からさがしてみよう	1	12
6	「真澄に学ぶ教室」講読会	20	241
7	初級者向け 秋田の歴史教室（戦国～桃山編）	2	39
8	初級編 秋田の縄文を学ぶ	1	8
9	先覚入門 得之の蔵書票づくり	1	7
10	初級編 縄文のくらし（衣食）	2	16
11	貝輪をつくる	1	12
12	土器作り教室	2	20
13	三浦館・旧奈良家住宅の見学会	1	7
14	深澤多市と払田柵跡	1	4
15	初めての古文書解読	6	46
16	地域回想法	2	8
17	秋田の先覚を知る	1	4
18	民俗学入門講座	2	30
19	秋田の絞り染め（藍染）	8	68
20	綿を紡ぐ	6	68
21	木工芸 木のオブジェづくり	1	12
22	からむしを續む	4	22
23	ゼロからはじめるワラ仕事	3	18
24	木工芸 Christmas Ornament	1	10
25	「真澄に学ぶ教室」講演会	1	42
26	秋田の先覚記念室講演会	1	24
	合計	74	793

②イベントについては、前年度に感染症対策のため中止した『軒の山吹』再現を開催できた。③展示付帯事業としては、わくわくたんけん室を会場とした体験型イベントや、人形芝居の上演、講演会などを実施した。

◇イベント等

・『軒の山吹』再現 4月20日(木)～23日(日) 分館

江戸時代の紀行家菅江真澄の図絵『軒の山吹』に描かれた風習を分館旧奈良家住宅に再現した。開花状況に伴い例年よりも1週間ほど早い日程となった。博物館ボランティア「アイリスの会」会員の協力のもと開催し、延べ170名の来館者に観覧いただいた。



『軒の山吹』再現の様子

・ミュージアムコンサート「早川泰子の“JAZZで巡る世界の旅” Vol.2」 3月20日(水・祝) 2Fロビー

普段はロビーに展示している進駐軍が使用していたピアノを活用したジャズコンサートを開催した。今回はピアノ、ベース、ヴァイオリンによる演奏を210名の参加者に楽しんでいただいた。



ミュージアムコンサートの様子

◇ミュージアムトーク

令和5年度も企画展の解説を中心にミュージアムトークを実施した。感染対策の見直しが進んだ前年度下半期からの取り組みを引き継ぎ、受付は実施せず、参加人数の把握のみにとどめた。企画展「秋田藩の絵図」の展示解説では20名程度という定員を設定し、定員の2倍を超えた際には同日内で2回目の解説会も行った。その他のミュージアムトークでは定員を設定しなかったが、開催に支障を来すほど会場が混雑することはなかった。年

間を通じて23回開催して370名の参加が見られ、コロナ禍前の規模に戻りつつある。次年度以降は、常設展示や可変展示コーナー等での解説会も検討していきたい。

◇館外講座

秋田県生涯学習推進本部が主催する「あきた県庁出前講座」を含めて館外で行われる普及活動を、普及・広報班が取りまとめて把握している。令和5年度は全体で29回実施され、受講者の延べ人数は1,242名であった。出前講座と出張講座は講座数と参加数ともに前年度に比べ大幅に増加した。出前講座は令和5年度より講座メニューを追加し全部で6つのメニューで受け付けた。

①出前講座	14回	438名	(前年度4回 115名)
②出張講座	14回	638名	(前年度5回 72名)
③連携講座	1回	166名	(前年度1回 165名)
④その他	0回	0名	(前年度0回 0名)

なお、①県庁出前講座の内訳は次のとおり。

・博物館の魅力について	1回
・博物館資料から考える秋田の原始・古代	2回
・秋田のくらし・行事	4回
・秋田のわざ	6回
・秋田の生きもの	0回
・秋田の大地	1回

▶ 他施設・他団体との連携

◇秋田県博物館等連絡協議会(略称：秋博協)

(1) 役員会、総会 5月31日(水)

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、令和元年度以来4年ぶりに対面形式で開催した。能代市役所を会場として、役員会には7館10名が、総会には9館20名が参加した。総会終了後、研修会として能代市子ども館を見学した。

(2) 実務担当者研修会 2月28・29日(水・木)

会場：秋田県立博物館講堂

講師：中村 一郎 氏 (奈良文化財研究所 企画調整部写真室 専門職員)

内容：2月28日 写真および撮影の基礎知識についての講義 (16館39名参加)

2月29日 撮影の実演 (14館39名参加)

例年講義のみ1日の開催であったが、文化財写真技術研究会との共催により、2日間にわたり大幅な時間を充てて写真および撮影に関する講義と実演を行った。未加盟の県内機関にも声がけして加盟促進を図り(3館5名が参加)、他県協議会からも1名の参加を得て

情報交換を行った。

(3) 燻蒸消毒サービス 9月4日(月)～11日(月)

鹿角市先人顕彰館、潟上市郷土文化保存伝習館、若美ふるさと資料館、秋田市立佐竹史料館、秋田市立千秋美術館、本荘郷土資料館、由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設、仁賀保勤労青少年ホーム、秋田県立農業科学館、花火伝統文化継承資料館、美郷町学友館、雄物川郷土資料館、の12館が利用した。

(4) 秋博協ホームページ

現行ホームページ「あきた文化的施設案内処」を刷新し、名称を「あきたミュージアムポータル」に改め、3月22日(金)より公開した。

加盟館数：52館 (令和6年3月31日現在)

◇博物館「友の会」

(1) 役員会・総会

役員改選の見通しが立たないため、開催せず。

令和6年度の新役員体制発足をめざし、令和5年12月と令和6年3月に新役員候補者による打ち合わせを実

施した。

(2) 各種研修会

上記の通り役員会・総会が開催されず、研修計画も立案されなかったため、令和2～4年度に引き続き、令和5年度も実施されなかった。

(3) 各ボランティアによる活動

- ・古文書整理ボランティア（6名） 隔週水曜日活動
- ・秋田古文書同好会（18名） 第三金曜日活動
- ・植物標本ボランティア（10名） 毎週火曜日活動
- ・考古ボランティア（9名） 隔週土曜日活動
- ・地質ボランティア（2名） 随時活動

(4) 友の会だより

- ・第53号（3月刊行、A3判二つ折り両面カラー200部）

(5) 印刷物等配布 4回

6月29日、9月22日、11月21日、3月29日

会員数：123名（令和6年3月31日現在）

◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、お話・織・図書・薫・藍の5チーム編成で活動に取り組んでいる。

お話チームは、わくわくたんけん室において月1回「おはなし会」を開催した。

織チームは、わくわくたんけん室において月1回「裂織体験」を実施した。また、夏休みに「子供向けストラップ作り」ワークショップも開催した。

図書チームは、図書資料の整理（考古図書も含む）と会員通信「時計」の編集・発行を行った。

薫チームは、ワラ細工の製作技術研修を毎月1回実施し、博物館教室のワラ細工体験を支援した。

藍チームは、絞り染めの製作技術研修を4月から12月まで月1回実施した。また、セカンドスクールで来館した高校生への絞り染めの支援や博物館教室の絞り染め支援を行った。

全体の活動として、4月に博物館イベント「軒の山吹」で分館への山吹の飾り付け、また10月に払田柵跡、美郷町民俗資料館で研修会を実施した。

会員数：36名（令和6年3月31日現在）

◇その他団体（みるかネットなど）

秋田市内にある公的文化施設のネットワークである秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）に当館も加盟している。国際博物館の日になんで各館同一日に開催するギャラリートークセッションが5月13日(土)に実施され、当館では企画展「秋田藩の絵図―描かれた城と城下町―」の展示解説を行った（参加者17名）。7月21日(金)に予定されていた連絡会議並びにみるかネット担当者会議は大雨災害への対応のため中止となったが、同会議によるイベント通信は予定通り年2回（5月と10月）発行し、館内に設置した。

博物館における実習・研修

◇博物館実習

令和5年度の博物館実務実習は、9月20日(水)から22日(金)、26日(火)から28日(木)までの計6日間実施した。

秋田公立美大、盛岡大学、大谷大学、米沢女子短大、北海道大学、新潟大学、石巻専修大学、八洲学園大学、8大学10名の学生から申し込みがあった。

初めの4日間は講義形式で博物館について学ぶものと、博物館実務について体験形式で学ぶものと2つに分け、それぞれ各部門の学芸職員が指導に当たった。最後の残り2日間では、学生にそれぞれの専門分野を活かしながら、博物館で実現可能な企画展の立案とそれに即した解説を行なってもらい、より実践的な展示業務について指導した。

◇中堅教諭等資質向上研修

令和5年度は当館での研修希望の申し込みがなかったため、実施しなかった。

次年度以降、研修の申し込みがあれば受け入れていきたい。

◇各種視察研修対応

大学等各種団体の視察・研修について、全体で4回、82名を受け入れた。

- ・秋田看護学校 5月16日・7名
- ・秋田県立大学 7月20日・35名
- ・秋田公立美術大学 9月26日・24名、
10月21日・16名

博物館活動の記録・整理

◇博物館活動の記録・整理

マスメディアで紹介された博物館活動については、一覧を作成して記録するとともに主管課である生涯学習課と情報を共有している。令和5年4月から令和6年3月までの一年間で当館の活動に関する新聞や雑誌等の記事は44件掲載され、県内外に広く伝えられた。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年2回行われる博物館協議会の資料として委員

へ配布した。

◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化・自然などに関する質問を受けている。令和5年度の県内外からの各部門等に対する問い合わせ件数は次のとおりである。考古4件、歴史21件、民俗9件、工芸9件、生物34件、地質11件、真澄11件、先覚8件、その他8件。

5 広報出版活動

特別展・企画展に関するポスターやフライヤーについては、展示内容に合わせてより効果的な広報先を検討し、関連団体等に重点的に配布した。また、プレスリリースにより各報道機関への情報提供に努めた。

SNSは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわせて頻度の高い投稿を行った。

ホームページについては、令和5年2月1日に刷新・公開しており、企画展・特別展をはじめ、博物館教室等イベントの迅速な情報提供に役立てている。

館内における広報については、1階、2階の各受付に設置しているデジタルサイネージにより、来館者にわかりやすく情報を伝えることができた。

広報活動

◇広報計画の策定と実施

広報は特別展・企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせ年5回の定期発送の計画を策定した。この定期発送では、各展示のポスター・フライヤーのほか、当館が発行した広報誌やイベント情報等の印刷物を、県内の学校・図書館・公民館などの公共施設や、道の駅などの観光施設、また県内外の博物館などにも発送し、掲示を依頼した。

また、定期発送は展示の情報が事前に周知されるよう、展示開始の1か月前を目処に発送時期を設定した。ポスター等の納期に合わせた準備や各担当者からの協力もあり、概ね予定通りの発送を行うことができた。

◇その他の広報活動の実施と改善

令和5年度は例年通り、特別展・企画展の開催前には各報道機関が所属する県庁記者クラブに教育庁総務課を通じてプレスリリースを行い、情報の周知を図ることができた。またその他、ミュージアムコンサートの開催についてもプレスリリースを行い、合わせて5回行った。

広報の甲斐あってか、特別展・企画展及び各イベントでは、各報道機関から取材があり、テレビや新聞等で紹介された。また秋田県教育委員会の広報誌「教育あきた」、秋田県広報紙「あきたびじょん」、秋田県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」等への掲載も行った。

今後も多くの県民に興味・関心をもっていただけるよう、多様な広報の在り方について検討していきたい。

出版物の刊行・配布

◇展示ポスター

企画展「秋田藩の絵図－描かれた城と城下町－」
B2判 1,200部
特別展「人形博覧会－土偶からリカちゃんまで－」
B2判 1,300部

企画展「HOTTA－『払田柵跡』発掘半世紀－」
B2判 1,200部
企画展「大こうぶつ展 鉱物を楽しむ5つのメニュー」
B2判 1,200部

◇展示広報フライヤー

企画展「秋田藩の絵図ー描かれた城と城下町ー」	A 4判	20,000部
特別展「人形博覧会ー土偶からリカちゃんまでー」	A 4判	40,000部
企画展「HOTTAー『払田柵跡』発掘半世紀ー」	A 4判	20,000部
企画展「大こうぶつ展 鉾物を楽しむ5つのメニュー」	A 4判	20,000部

◇展示解説資料

企画展「HOTTAー『払田柵跡』発掘半世紀ー」	A 4判	24頁
(編集・発行：秋田県埋蔵文化財センター)		
企画展「大こうぶつ展 鉾物を楽しむ5つのメニュー」	A 4判	8頁 2,000部

秋田の先覚記念室企画コーナー展

「勝平得之ー得之・秋田への想いー」	A 4判	12頁	1,000部
-------------------	------	-----	--------

◇広報誌

博物館ニュースNo.177・178	A 4判	8頁	各2,300部
広報紙「真澄」No.41	A 4判	8頁	1,500部

◇報告書等

年報 令和5年度	A 4判	47頁	800部
秋田県立博物館研究報告第49号	A 4判	106頁	500部
真澄研究第28号	A 5判	102頁	500部

インターネット利用

令和5年度のホームページアクセス数は約8万4千回（前年度比約1万8千回増）であった。前年度に引き続き、年間アクセス数の最高値を大幅に更新することとなった。アクセス数増加の要因となったのが、前年度末（令和5年2月）にウェブサイトがリニューアルされたことである。繁忙期にあたるGW期間中や夏休み中に数値が上昇しただけでなく、これまではアクセス数が大きく低下していた冬季の平日においても安定したアクセス

数を記録していた。

電子メールについては、県内外からの様々な申請や問い合わせ、博物館教室の申し込みなどがあり、担当者が定期的にチェックして対応している。また、先に述べたウェブサイトのリニューアルに際して新設された「お問い合わせフォーム」を利用したメールも、数多く受信するようになった。

6 学習振興活動

学習振興班は、体験型展示室の運営と学校団体の受け入れが活動の中心となっている。

体験型展示室のわくわくたんけん室は、令和5年度から非常勤職員も含めた打ち合わせを重ね、従来懸案事項であった、宝箱の見直しを行った。展示室内を自然系・人文系・秋田の布・昔の遊びコーナーに分け、宝箱を軽く、中身が見やすいものに変え、デザインも一新した。

宝箱の説明文についても、小学校高学年を対象としていたが、小学校中学年向けに文言や漢字表記を改めた。また、季節ごとに学芸職員が行うイベントを実施した。

学校団体の受け入れについては、年間を通して中止することなく実施した。また中学校職場体験や高校生インターンシップ・ボランティア活動については中学校や高校からの要望に応えながら実施した。

▶ わくわくたんけん室の運営

◇一般及び団体利用への支援・指導

令和4年度まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開室時期が限られていたが、令和5年度からコロナ前の活動を行うよう心がけた。しかしながら、前年度同様、コロナやインフルエンザの流行がみられたため、令和5年度の開室時間は以下のとおりとした。

開室時間：平日・休日とも

午前 10:00～11:30

午後 13:00～16:00（4月1日～10月31日）

13:00～15:30（11月1日～3月31日）

ただし令和5年度から入室人数に制限を設けなかった。そのため、休日にはコロナ前のように大勢の方に利用していただくことができた。



わくわくたんけん室の様子

◇室内・体験アイテムの保守管理

令和5年5月、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に引き下げられ、行動制限が大幅に緩和されたのを受けて、わくわくたんけん室内に接触型を含めた展示コーナー（自然科学、考古、学芸員の仕事、民俗、工芸）を新たに設置した。キャプションのデザインを色分けして一新し、順次展示を入れ替えながら、各展示室とリンクする魅力あるわくわくたんけん室の再編を目指している。

これまで体験教具を入れていた宝箱は重く中身が見えず親しみにくい難点を指摘されていたので、教具を蓋無しの小さなコンテナボックスや半透明のコンテナボックスに入れて可視化し、すぐ手に取れるようにした。これにより入室者が気軽に体験できるようになった。今のところ、メニューのリニューアルは行っておらず、保守点検をかねてこれまでの教具を精査して展開している。

鳥海高原鉄道おばこ号の運転台は相変わらずの人気である。それゆえ興奮した子どもたちが乱暴に乗車、運転操作する嫌いがある。だからといって車内をコーナーガードで埋め尽くすわけにもいけないので、実際の列車

に乗車すると同様のマナー喚起を進めたいと考えており、新たなキャプションで試行を開始した。

宝箱に収められていた教具と塗り絵、工作などのアイテムはおそらく担う目的を別に創設されたと考えられる。経年によって形骸化し、「体験アイテム」と同一に呼んでいたため、曖昧なまま現状に固まってしまった。学習振興班が新体制になり、組織体制の改編も含め今後の事業展開を模索している。

◇宝箱及び体験アイテムの改善・開発

接触型展示の開始と同様に、塗り絵、工作を中心とした体験アイテムについても感染拡大前の通り実施することになった。ただし今後の構想として毎日提供できるデイリープログラム、土日祝日に実施するスペシャルプログラムの二本立てでの展開をにらんで令和5年度は試行してきた。

デイリープログラムは来室者の需要が相応にあるものの、メニューの改善、内容の再検討、新作を望む声もあるので各部門の協力を得て進めたいと試行錯誤している。ひとまずは棚にあふれた教具教材、数年来使用されていない資材の有効活用も念頭に、室内の整理に手をつけはじめた。

デイリープログラムの改編に先行して、スペシャルプログラムは令和5年度当初から実施してきた。これまで行われてきた体験メニューの他にシン・タタミゾメ（古代色と襲の季節感に注目）、天然石チャーム（鉱物の企画展に合わせ）、アイロンビーズ（季節の風物詩の解説を添えて）、刺し子やわら細工（伝統工芸の体験）など10の新メニューを展開してきた。しかしながら、まだまだ実施状況が周知されておらず、実施内容の必要性、難度についても検討を要する。新メニュー実施の掲示物はすでに設置したので、今後は資料映像の上映だけにとどまるモニターをデジタルサイネージとして多岐に活用するべきと考えている。

◇休日イベント

令和4年度と同様、学芸職員が専門分野を活かした休日イベントを実施した。展示資料に関連した工作を中心に行い、学芸職員が説明を加えながら1～2時間程度のイベントを行った。

令和5年度新たに行った休日イベントは次のとおりである。

- ・拓本をとってみよう（5月6日）
- ・シン・タタミゾメ（5月7日）
- ・アイロンビーズで作る秋田犬・トナカイ・辰・鬼・おひなさま（9月24日、11月23日、12月23日、12月

24日、1月4日、1月5日、1月13日、2月3日、2月4日、3月2日、3月3日)

- ・樹皮で作るストラップ (10月21日)
- ・刺し子のコースター作り (11月4日、1月8日)
- ・まつぼっくりで作るミニクリスマスツリー (12月23日、12月24日)
- ・日本画の絵の具を使って絵手紙を描こう (1月14日、3月23日)
- ・ワイヤーで作る天然石のチャーム (1月20日、1月27日、2月11日、3月17日、3月24日)
- ・てんこく (3月20日)
- ・鉱物くらべにちょうせん (3月9日)

また、アイリスの会の協力によって、手軽に機織りストラップ作り (8月20日)、ワラで作る辰 (1月7日) のイベントを実施したり、毎月最終土曜日は裂織体験

(4月～11月まで)、日曜日はおはなし会を実施したりした。

◇出張わくわくたんけん室

令和5年度は、秋田市自然科学学習館の依頼でアルヴェにおいて行われた「きらめきdeサイエンス」に参加し、たたみ染めを行った。10月9日(月)では、染め終わり後の作品を見た人々が多く集まり、職員だけでは対処できないほどとなった。体験者は95名であった。2月10日(土)では子ども向けのサイエンス教室があったため、体験する人は少なかったが、午後の教室終了後に混み合い、たたみ染め用の板が足りなくなることがあった。体験者は63名であった。子どもだけでなく大人にも好評ではあるが、あり方を再考する必要がある場面もあった。

学校団体による博物館利用の支援

◇セカンドスクールの利用

令和5年度は週予定表と団体予定表を一本化し、事務作業の効率化を図った。来館時には展示室の概要説明を解説員が担当し、解説技術の向上に努めた。セカンドスクール担当の学芸職員2名が主に学校職員との対応や見学時間の調整を行い、わくわくたんけん室の体験活動は学習振興班、分館は民俗部門の学芸職員が担当した。小学校の「昔の暮らし」等の学習に関連して分館の見学や昔の道具の説明を希望する学校が多いことから、民俗部門担当者が42校(セカンドスクールの利用の38%)の対応をしている状況である。特別支援学校来館の際には学校職員との打ち合わせを密にして、円滑かつ個々の目標に応じた見学ができるよう配慮した。

コロナウイルスが5月に5類感染症に移行したことから、前年度と利用状況が変化した。修学旅行での利用は一昨年度25校、昨年度14校だったが、令和5年度は2校にとどまった。それに伴い小・中学校の利用校数が減少した。一方、幼・保・こども園の利用は前年度の10校から23校に増えており、コロナ前の利用数に戻ってきている。

今後はタブレットを活用した見学等、さらにプログラムを充実させて利用の拡大を図りたい。

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	学校数	利用人数	学校数	利用人数	学校数	利用人数
幼稚園・保育所	23	706	10	310	13	428
小学校	60	2,787	72	3,481	83	4,235
中学校	13	513	19	547	16	568
高等学校	12	378	18	306	11	481
特別支援学校	4	50	5	102	4	83
その他	0	0	0	0	1	23
合計	112	4,434	124	4,746	128	5,818

◇出前授業

・令和5年度 8校316人(令和4年度660名)

小学校社会科の単元である「昔の道具とくらし」について、出前授業の依頼が多く寄せられた。羽釜や炭火アイロンなど、かつて使われていた道具類を子どもたちが実際に見て触れる機会が少なくなっているためか、「とても良い経験になった」と概ね好評である。なお、地質部門でもう1件申し込みがあったが、当該地域の断水のためキャンセルとなった。

- ◆小学校3年生 …… 民俗(昔の道具とくらし)4件
- 6年生 …… 地質(大地のつくり)1件
- ◆中学校1年生 …… 歴史(北前船)1件
- 3年生 …… 民俗(秋田のくらし・行事)1件
- 3年生 …… 地質(秋田の大地)1件
- ◆高校 3年生 …… 工芸(素材と生産からみた衣服について) 1件

◇高校生インターンシップ・中学生職場体験

- ・インターンシップ：26名(令和4年度25名)
- 高校2年生……能代・2名2日間、令和・2名2日間、金足農業・3名3日間、男鹿工業・3名3日間
- ・職場体験：12名(令和4年度20名)
- 中学2年生……天王南・3名4日間

令和5年度は7月から10月にかけてインターンシップおよび職場体験の受け入れを行った。体験期間は夏休み期間中が主だったため、熱中症対策に留意した。期間中に学校団体利用が重なることが多く、実習生にも対応

の補助に加わってもらった。博物館の専門的な業務だけではなく、来館者のための準備や広報など、いわゆる裏方としての業務も多く、博物館業務の幅広さを体験できたのではないだろうか。なお、主な業務内容はわくわくたんけん室作業補助（消耗品の補充、棚卸し、レプリカ作成等）、学校団体利用補助（わくわくたんけん室内）、地質部門資料整理、図書整理、定期発送作業補助などである。

また、もう1件インターンシップの申し込みがあったが、希望する日程が当館の燻蒸消毒の期間による休館日であったため、謝絶している。

◇教員のための博物館の日

- ・ 8月3日(木)
参加者13名（申込14）（昨年度参加者18）
参加者内訳
通常申込9名（小1、中1、高3、特別支援4）
総合教育センター4名（研修員3、指導主事1）

令和5年度はサブタイトルを「博物館のトリセツ」とし、教員にセカンドスクールの利用の実際を体感してもらえるよう企画した。最初にセカンドスクールの利用の概要を説明し、その後学芸職員の資料解説を加えた展示室見学（人文・旧奈良家住宅・自然）と模擬出前授業（先覚部門）の体験、最後に貸出可能な資料について各部門から活用方法を提案した。また、途中で自由見学の時間を設け、興味・関心のある展示室をさらに見学できるようにして、様々な活用を検討してもらえるようにした。

国立科学博物館が中心となって開催している「教員のための博物館の日」に加盟してから7回目の実施で、今回もペーパークラフトなど諸アイテムの提供を受けた。

全体を通して、参加していただいた教員から概ね好評を得ることができた。今後はさらに秋田県内の教員に有意義な情報を提供できる場としていきたい。

7 館外活動

◇執筆（著書・論文など、「研究報告第47号」は除く）

- ・ 丸谷仁美
「八戸えんぶり中間報告：十一日町」
「なんこう鍋」（秋田県教育委員会編『秋田の郷土食（仮題）』）
「熊鍋」（秋田県教育委員会編『秋田の郷土食（仮題）』）
「うさぎ汁」（秋田県教育委員会編『秋田の郷土食（仮題）』）
「秋田市太平黒沢の行商記録－佐々木辰四郎氏の資料を中心として」（今石みぎわ編『箕－自然を編む知恵と技－』）
「秋田県太平箕資料編」（今石みぎわ編『箕－自然を編む知恵と技－』）
- ・ 黒川陽介
「絵図に描かれた横手城と横手城下町」（『横手郷土史資料』98号）
- ・ 千田育栄
「秋田の先人名鑑」（フリーペーパー『マリ・マリ』令和4年6月3日号より継続して担当）

◇講演・講座など

- ・ 新堀道生
「秋田の歴史と民俗文化」（秋田県立大学「あきた地域学」）
「秋田を知る（歴史）」（秋田看護学校）
「仁賀保の廻船史料を読む」（にかほ市教育委員会）
「ヒトガタをめぐる愛着と畏怖の諸相」（十二支館シンポジウム）
- ・ 丸谷仁美
「秋田を知る（民俗）」（秋田看護学校）
- ・ 加藤 竜
「柏子所貝塚と麻生遺跡について」（市民おもしろ塾）
- ・ 渡部 均
「秋田の大地のおいたちと県立博物館」（秋田県高等学校教育研究会理科部会）
- ・ 齋藤知佳子
「秋田を知る（先覚）」（秋田看護学校）

- ・黒川陽介
「絵図に描かれた横手城と横手城下町」（横手郷土史研究会）
- ・藤中由美
「秋田を知る（生物）」（秋田看護学校）
- ・斉藤洋子
「秋田県にみる皮細工について（工芸）」（田舎ぐらし大学みたね）
- ・角崎 大
「菅江真澄遊覧記から男鹿・八郎湖周辺にまつわる話」（旭水会男鹿支部）
「真澄、八郎瀨周辺を歩く」（八郎瀨町立図書館）
- ◇委員委嘱
 - ・新野直吉
史跡払田柵跡調査指導研究委員（委員長）
後三年合戦（役）等関連遺跡整備指導委員会特別委員
由理柵・駅家研究会顧問
- ・渡部 均
大館市文化財保護審議会委員
男鹿半島・大瀨ジオパーク推進協議会アドバイザー
- ・藤原尚彦
大瀨村干拓博物館協議会委員
- ・新堀道生
秋田県教育委員会文化財収録作成委員会調査委員
由利本荘市歴史文化拠点施設検討委員会委員
由利本荘市文化財保護審議会委員
- ・丸谷仁美
横手市文化財保護審議会委員
湯沢市文化財保護審議会委員
湯沢市文化財保存活用地域計画協議会委員
由利本荘市歴史文化拠点施設検討委員会委員
由利本荘市民俗芸能伝承館運営協議会委員
秋田の郷土食調査委員会委員
八戸地方えんぶり調査委員会調査員
- ・加藤 竜
大館市文化財保護審議会委員

8 令和5年度のあゆみ

- ◇防災訓練 5月24日(水)
本館及び分館において地震発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。
- ◇文化財防火デー防災訓練 1月24日(水)
1月26日の文化財防火デーに因み、重要文化財である旧奈良家住宅（分館）において、火災発生を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等を実施した。
- ◇第1回秋田県立博物館協議会 8月2日(水)
令和5年度事業の計画を報告した。また、「地域や社会との望ましい関係を目指して」を協議題として、これからの博物館に求められる多様化・高度化した役割・機能について意見交換を行った。
- ◇第2回秋田県立博物館協議会 2月8日(木)
令和5年度事業の経過及び令和6年度事業の計画案を報告した。また、令和5年度ミュージアム活性化事業「特別展」の評価について協議を行い、各委員から多くの意見が出された。
- ◇甘肅省訪問団来館 12月7日(木)
中国甘肅省と秋田県との友好提携40周年を記念して、政府代表団と企業代表団からなる訪問団11名が来館し、企画展「大こうぶつ展」や人文展示室を見学した。
- ◇新型コロナウイルス感染症に関する基本的な感染対策 5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、2類相当から5類に移行されたことに伴い、6月1日以降は、入館時の検温や手指消毒を来館者の判断に委ねるなど、感染対策を変更した。
- ◇応急手当講習会 1月16日(火)
土崎消防署救急救命士を講師に招き、心肺蘇生法の手順とAEDの操作方法の講習会を実施した。



資

料

I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 (令和6年4月1日現在)

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,787	450	13,796	9,257	2,647	10,976	126,431	17,908	5,688	2,234	193,174

文化財指定物件一覧 (館蔵資料)

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第6号	紙本着色 秋田風俗絵巻	1巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財 (絵画)
県	工芸	工芸第34号	鐺 壇溪図	1枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第41号	刀 銘出羽住忠秀刻印	1口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第54号	短刀 銘天野藤原高真作 元治元年吉日	1口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第60号	刀 銘天野河内助藤原高真 慶応二丙寅八月吉日 応三森 光茂需作之	1口	昭和48. 6.16	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第64号	魚藻文沈金手箱	1合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第66号	鐺 (あやめ図透彫) 銘 出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	1枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第67号	刀 銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	1口	平成 4.4.10	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第69号	秋田家資料 (刀剣類ほか)	1括	平成11. 3.12	県指定有形文化財 (工芸)
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保 字狐森出土	1口	昭和53. 6.15	重要文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 (枯草坂古墳出土)	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器 (沢田遺跡出土)	1点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品 (青磁碗他)	1括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財 (考古資料)
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内 上掬出土	4箇	昭和63. 6. 6	重要文化財 (考古資料)
県	歴史	歴史資料第7号	久保田城下絵図	1幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	歴史資料第8号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	書跡典籍第5号	平田篤胤竹画讃	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第6号	平田篤胤書簡	1巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第7号	平田篤胤和魂漢才	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第12号	季吟・桂葉両吟百韻	1巻	昭和60. 3.15	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第17号	手柄岡持 (朋誠堂喜三二) 自筆 作品並びに関係資料 (江都前 後赤壁)	1点	平成30. 3.16	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	1棟	昭和40. 5.29	重要文化財 (建造物)
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田柚子造材之画	1点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物		田沢湖のクニマス (標本)	1点	平成20. 7.28	登録記念物

II 歴代館長、特別展等一覧

▶ 名誉館長

新野直吉	平成12年4月～令和6月1月
------	----------------

▶ 歴代館長

佐藤文夫	昭和50年5月～昭和52年3月
加賀谷辰雄	昭和52年4月～昭和53年3月
奈良修介	昭和53年4月～昭和58年3月
畠山芳郎	昭和58年4月～昭和63年12月
斉藤長	昭和64年1月～平成元年3月
佐藤巖	平成元年4月～平成3年8月
橋本顕信	平成3年9月～平成4年3月
近藤貢太郎	平成4年4月～平成7年3月
高橋彰三郎	平成7年4月～平成9年3月
新野直吉	平成9年4月～平成12年3月
富樫泰時	平成12年4月～平成15年3月
佐々田亨三	平成15年4月～平成17年6月
三浦憲一	平成17年6月～平成18年3月
沢井範夫	平成18年4月～平成20年3月

佐々木義幸	平成20年4月～平成21年3月
鈴木幸一	平成21年4月～平成22年3月
荒川恭嗣	平成22年4月～平成23年3月
神馬洋	平成23年4月～平成25年3月
風登森一	平成25年4月～平成27年3月
佐々木人美	平成27年4月～平成29年3月
山口多加志	平成29年4月～平成30年3月
山田浩充	平成30年4月～平成31年3月
高橋正	平成31年4月～令和3年3月
今川拡	令和3年4月～令和4年3月
小園敦	令和4年4月～令和5年3月
伊藤真	令和5年4月～令和6年3月
宇佐美行毅	令和6年4月～

▶ 特別展等一覧

昭和53年1月	地域展	伝説の里鹿角
7月	特別展	(東京国立博物館巡回展) 日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年1月	地域展	鳥海山麓－山と人－
7月	特別展	日本の時代服飾
56年9月	東北展	東北の仮面
58年1月	地域展	平鹿－水とくらし－
7月	特別展	はにわ
59年5月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年7月	特別展	世界の貝
62年6月	東北展	出羽の近世大名
63年5月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年6月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
2年7月	特別展	日本のやきもの
3年4月	特別展	世界の昆虫
4年7月	特別展	近世美術の華
5年4月	特別展	鳥ってなあに
6年4月	特別展	北方文化のかたち
7年4月	特別展	地球を見つめる小さな眼
8年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－
9年11月	特別展	日本のわざと美
10年4月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年4月	特別展	おもちゃ
平成12年10月	特別展	(国立博物館美術館巡回展) 信仰と美術

16年9月	特別展	オリエント文化展
10月	特別展	北東北三県共同展 描かれた北東北
17年7月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年9月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年7月	特別展	北東北三県共同展 北東北自然史博物館
20年7月	特別展	昆虫の惑星
21年4月	特別展	白岩焼
22年5月	特別展	北東北三県共同展 境界に生きた人々
23年7月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年9月	特別展	アンダー×ワンダー！ －北東北の考古学最前線－
25年7月	特別展	あきた大鉄道展
26年9月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし
27年9月	特別展	徳川將軍家と東北
28年9月	特別展	発掘された日本列島2016
29年7月	特別展	妖怪博覧会 ～秋田にモノノケ大集合！～
30年7月	特別展	あきた大鉄道展 HE-30系
令和元年7月	特別展	1964－世界の祭典から半世紀－
3年9月	特別展	佐竹氏遺宝展 －守り継がれた大名家資料－
4年7月	特別展	大恐竜展秋田 －生命の鼓動を感じて－
5年7月	特別展	人形博覧会 －土偶からリカちゃんまで－

Ⅲ 秋田県立博物館条例

昭和50年3月12日公布
昭和50年5月1日施行
平成31年3月15日最終改正
令和元年10月1日施行

(設置)

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館（以下「博物館」という。）を秋田市金足鳩崎字後山52番地に設置する。

(職員)

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(博物館協議会)

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(入場料等の徴収)

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

(入館料等の減免)

第5条 知事は、特別な理由があると認めるときは、入館料又は使用料を減免することができる。

(入館料等の不還付)

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

(施行規定)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第1（第4条関係）

入館料の上限額

区 分	金 額	
	個 人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	1人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	1人につき 320円
一 般	600円	1人につき 480円

備考：この表における「小学校児童及び中学校生徒」及び「高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生」には、それぞれこれらの者に準ずる者を含むものとする。

別表第2（第4条関係）

区 分	金 額
講 堂	1 日 11,940円
	半 日 5,970円
学 習 室	1 日 3,560円
	半 日 1,780円

IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。

◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

第9章 博物館

（開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期 間	時 間
4月1日から10月31日まで	午前9時30分から午後4時30分まで
11月1日から3月31日まで	午前9時30分から午後4時まで

（休館日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

V 入館者に関する資料

(1) 入館者数内訳

令和4年度

総入館者数 81,654人

有料展示

大恐竜展秋田ー生命の鼓動を感じてー

令和5年度

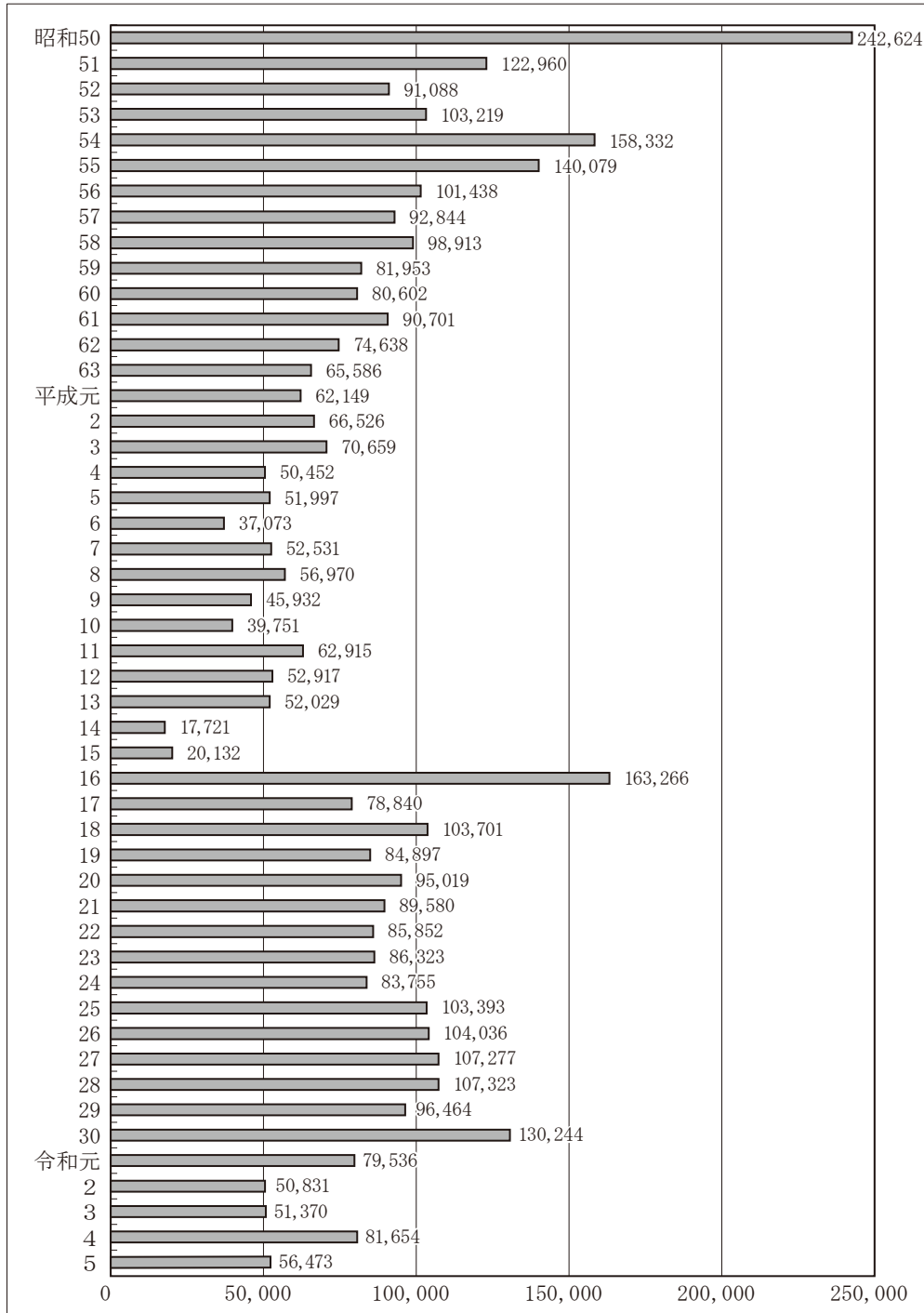
総入館者数 56,473人

有料展示

人形博覧会ー土偶からリカちゃんまでー

(2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 4,124,565人（令和5年度末）



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～利用案内～

開館時間 4月～10月 午前9時30分～午後4時30分
11月～3月 午前9時30分～午後4時

休館日 ・月曜日
(ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日)
・年末年始
(12月28日～1月3日)
・燻蒸消毒の期間
令和6年度は9月2日(月)～9月9日(月)

入館料 無料
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使用料

	区 分	金 額
講 堂	1 日	11,940円
	半 日	5,970円
学 習 室	1 日	3,560円
	半 日	1,780円

～交通案内～



本 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バ ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分
車 ：秋田自動車道昭和男鹿半島 I C より10分、秋田北 I C より15分
秋田市中心部から国道7号で約15km・30分

分 館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩30分
バ ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋田県立博物館年報

令和6年6月発行

〒010-0124

秋田市金足鳩崎字後山52

秋 田 県 立 博 物 館

T E L 018-873-4121

F A X 018-873-4123
